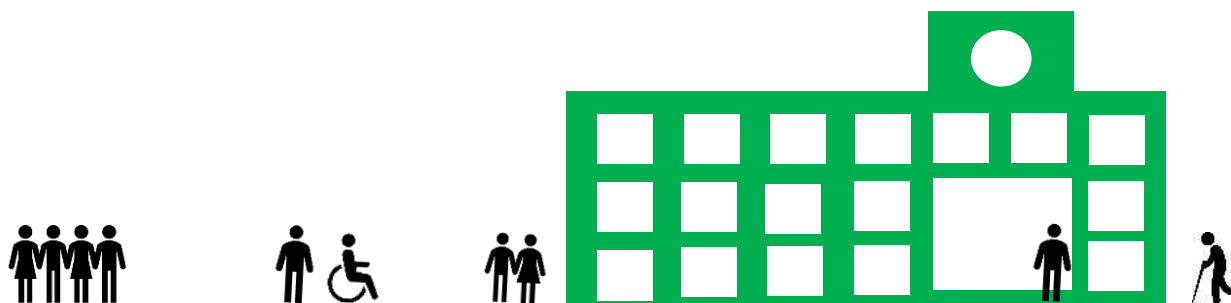


令和3年度（2021年度）文部科学省委託事業
学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業
「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」

**行政と大学の連携・協働を通じたインクルーシブ・プログラムの開発
—当事者が主体となって地域に働きかけ、交流や仲間づくりを推進するために—**



2022年3月
令和3年度インクルーシブ・プログラム開発事業
相模原市・相模女子大学

令和3年度（2021年度）文部科学省委託事業
学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業
「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」

行政と大学の連携・協働を通じたインクルーシブ・プログラムの開発
—当事者が主体となって地域に働きかけ、交流や仲間づくりを推進するために—

目次

目次	1
挨拶（相模原市長・相模女子大学学長）	2
I 企画趣旨	4
II 実践報告	14
1. インクルーシブ・セミナー	
2. インクルーシブ・ゼミ	
3. インクルーシブ・リサーチ	
4. 総合考察	
III. 連携協議会	77
IV. 市民への啓発	88
あとがき	101



ごあいさつ

本市は、障がいの有無にかかわらずあらゆる人の尊厳が守られ、安全で安心して暮らせる共生社会を実現するため、「共にささえあい生きる社会 さがみはら障害者プラン」を策定し、市民とともに諸施策に取り組んでいます。

障がいのある方が笑顔で心豊かに暮らすためには、学校卒業後の学びの場や地域で仲間と過ごせる交流の場が身近にあることが求められており、障がいの有無にかかわらず交流し、共に学ぶ機会を広く整備していくことが必要となっております。

このため、本市は、本年度、文部科学省による「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」として、相模女子大学の教職員及び学生の皆さまや障がいのある若者の皆さま等と共に「インクルーシブ・プログラム開発事業」に取り組み、今回、その成果をまとめることができました。

この成果を踏まえ、今後、教育や福祉分野など、障がいのある方の生涯学習機会の拡充に取り組む多様な主体の皆さまと連携・協働して共にささえあい生きる社会の実現に向けた施策を更に推進してまいりますので、引き続き皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本事業を進めていくにあたりまして、相模女子大学の皆さまをはじめ貴重なご意見やご協力をいただきました関係者の皆さまにあらためて厚くお礼申し上げます。

令和4年2月

相模原市長

本村賢太郎



ご挨拶

日頃から、相模女子大学・相模女子大学短期大学部の教育活動に対し、ご支援を賜りましてまことにありがとうございます。

これまで「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」として、相模原市と本学が協働で研究活動に取り組んでまいりました。このたび、その成果を報告書という形にまとめてお目にかけることになりました。

本学では、持続可能な大学を目指して、大学改革のためのさまざまな取り組みを進めており、その一つとして「多様な生涯学習のあり方と、本学における位置づけ」をテーマとしたワーキンググループを設置し、「大学における障害者の生涯学習のあり方」について検討を進めているところです。本学の社会貢献の一環としても、多様性を包含した生涯教育の検討は大きな課題であり、その意味でも、このたびの研究活動は本学にとっても重要な一歩であったと考えております。障害者の生涯教育についての社会的な現状にはまだ望むべき点も多く、今回の研究成果を一石として、「障害者の多様な学習」に関する取り組みが社会全体に広まることを願っております。本学としましても、さらに実践研究を進めるとともに、充実した生涯教育の構築をめざしてまいりますので、どうかご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

末筆ではございますが相模原市をはじめ、この実践研究に関わってくださったすべての方々に厚くお礼申し上げます。

令和4年2月

相模女子大学
相模女子大学短期大学部 学長 田畑 雅英

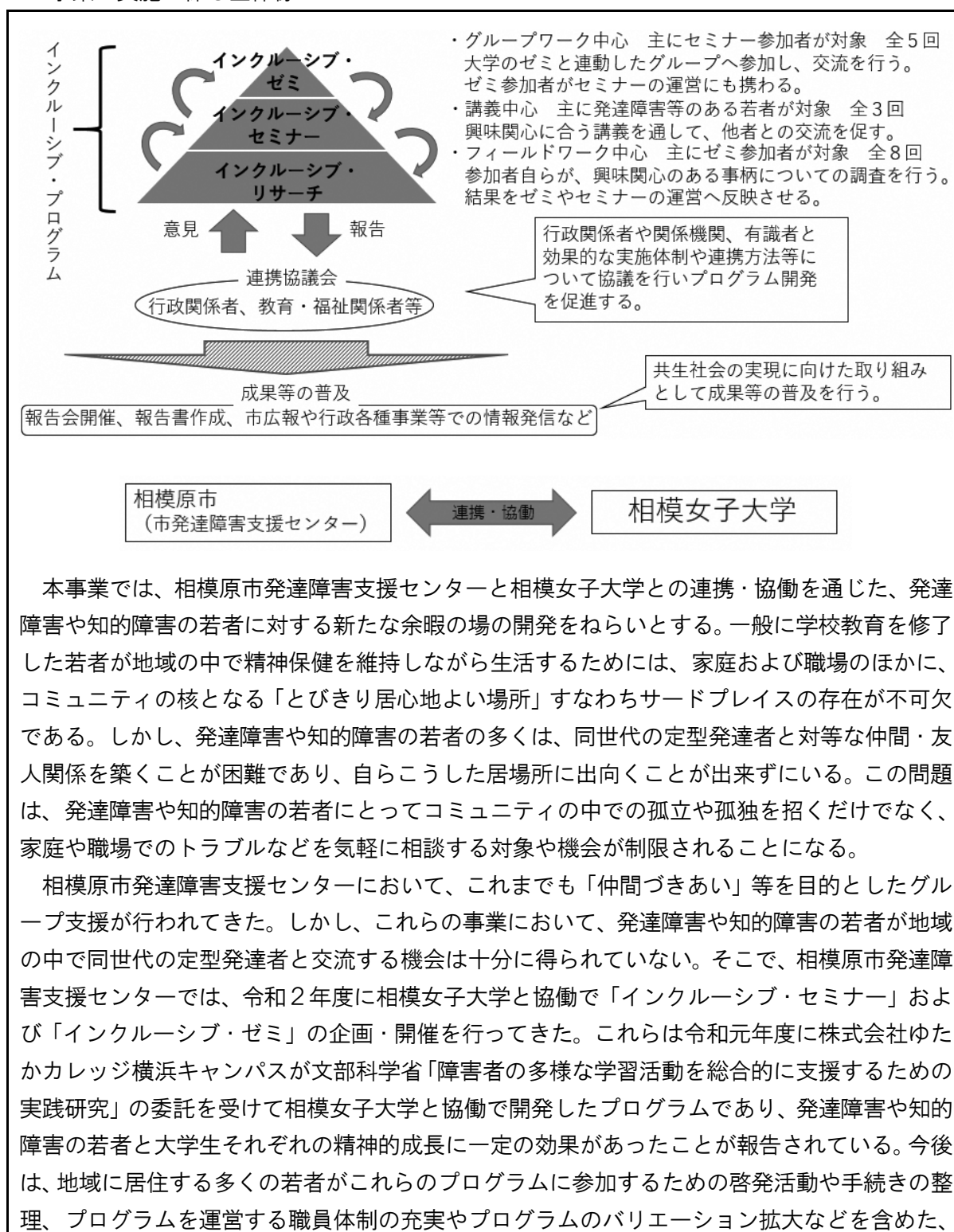
I 企画趣旨

事業開始前に文部科学省へ提出した令和3年度「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」に関する企画提案書の概要を以下に示す。

令和3年度「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」 に関する企画提案書(抜粋)

1. 事業の題名 「インクルーシブ・プログラム開発事業」

2. 事業の実施に係る全体像



包括的かつ持続可能な体制整備が課題と考えられる。

そこで令和3年度、本事業の受託により、相模女子大学との連携関係をより強化して体制整備を図る。プログラム開発においては、実績のある相模女子大学へ再委託を行い、大学のノウハウや資源を活用して、プログラムを運営する職員数を増やし、当事者のニーズを踏まえたバリエーションの拡大を図る。なお、プログラムの運営においては、行政の専門職（社会福祉専門職、心理専門職）も積極的に参画していく。そして、市民への周知・啓発、成果の発信等においては、行政が中心になり、庁内資源を積極的に活用していく。市の広報紙や市ホームページ等を活用するとともに、市の発達障害啓発週間事業とコラボレーションして事業を周知することで、広く市民への啓発を行う。また、市が設置する発達障害者支援地域協議会との連絡調整を行うことで、地域資源を踏まえた事業展開を図る。また、本事業を通して福祉部局と教育部局の庁内連携を推し進めていき、行政関係者や地域の教育・福祉関係機関へ向けた成果の普及・活用も行政が主導となり実施していく。

プログラムのバリエーションについては従来の「インクルーシブ・セミナー（令和元年度「インクルーシブ・キャンパス講座」）」および「インクルーシブ・ゼミ」に加え、「インクルーシブ・リサーチ」という新たなサブプログラムの開発を目標とする。

各サブプログラムのねらいや内容は以下の通りである。「インクルーシブ・セミナー」は、誰でも参加可能な市民セミナーとして講義中心に開催し、興味関心に合う講義を通して、発達障害や知的障害の若者と学生や市民との交流を促す。「インクルーシブ・ゼミ」は大学のゼミと連動させたクローズな教室であり、自己理解の深化および相談の成功体験をねらいとする。メンバーはインクルーシブ・セミナーにも参加し、ピアサポーターとして地域の発達障害や知的障害の若者と交流する。

「インクルーシブ・リサーチ」は、大学の研究活動と連動させたクローズな教室であり、自身の関心を探求するための調査方法や社会への発信の方法を学ぶことによりセルフ・アドボカシーが可能になることをねらいとしている。発達障害や知的障害の若者が、自らの生活を豊かにするための課題と感じている事柄を毎年ひとつ、テーマとして取り上げ、障害当事者、学生、大学教員等が協働して調査研究を行い、その結果をインクルーシブ・プログラムにフィードバックするとともに、社会に向けて発信する。これは、障害者権利条約策定の過程で当事者の思いとして語られた“Nothing about us without us（私たちのことを私たち抜きで決めないで）”という言葉を実現のものとする仕組みである。

これら3つのサブプログラムは、先の図の通り、階層的な関係に位置付けられる。また、インクルーシブ・ゼミのメンバーには、インクルーシブ・セミナーにてピアサポート役を担い、インクルーシブ・リサーチのメンバーはチームでまとめた意見をインクルーシブ・セミナーやインクルーシブ・ゼミのメンバー、地域の教育関係者や福祉関係者、市民に向けて発信していく。そして、これらの活動や内容に興味関心を持った若者の中から、次年度のインクルーシブ・リサーチに参加し、ピアサポーターやニーズ調査の役割を担い、社会に向けて発信していく者を育てるという、「当事者による後進育成と啓発」の循環モデルを想定している。

本プログラムの将来的な展望は、当事者が主体となって共生社会の実現に向けた地域への発信や啓発、および発達障害や知的障害の若者と大学生や市民との交流や仲間づくりを日常的に促進するための持続可能な体制整備である。事業の取り組み過程や成果を活用して、福祉部局と教育部局の垣根を越えた庁内連携を図る。行政を中心として、公益社団法人相模原・町田大学地域コンソーシアム等の関係機関とも連携し地域全体として学校卒業後の障害者の余暇や

学びの支援を推進する体制作りへの発展を目指す。成果報告会ではシンポジウムを開催し、国内で先進的な取り組みを行っている津田英二氏を講師に招き、本事業での成果について講評をいただく計画であり、将来的には事業の成果を他の大学においても普及できるように有識者の意見を踏まえて汎用性について検討していく。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、各プログラム及び連携協議会においては、WEB会議システムを用いたオンライン形式の開催を前提とする（インクルーシブ・リサーチにおける視察についても、WEB会議システムによるライブ配信等の活用など工夫を行う）。成果の発信・普及においても、市のホームページや市のSNS等のオンラインを活用する。

3. 事業内容

(1) 効果的な生涯学習プログラムの計画と実施

計画内容

1. インクルーシブ・セミナー（全4回）

誰でも参加可能な市民セミナーとして講義中心に開催し、興味関心に合う講義を通して、発達障害や知的障害の若者と市民との交流を促す。1回の流れは二部構成で進行する。第一部は発達障害や知的障害の若者にとって興味・関心がある講義（心理学・倫理学・経済学・生涯学習）を聞く時間（1時間）、第二部は参加者が自分の興味・関心を通して交流する「なんでも自慢タイム」（30分）である。第二部には、その年度の「インクルーシブ・ゼミ」及び「インクルーシブ・リサーチ」のメンバーがボランティアとしてピアサポーター役となって参加者同士の交流を促進する。特に、4回目は「インクルーシブ・リサーチ」のメンバーが登壇して、研究の成果を踏まえた“インクルーシブな学び”について参加者と共有する。ゼミやリサーチのメンバーがセミナーの参加者と交流し、講義内容にも携わることでインクルーシブ・プログラム全体の循環を促していく。4回の日程および内容は以下の通りである（実施時期 10月、11月、12月、2月）。

内容・講師

<p>①学んでみよう！哲学 相模女子大学人間心理学科 准教授 伊東 俊彦 氏 日常のあたりまえを深く考 えてみる学問。人生がキラキ ラ豊かに見える！</p>	<p>②学んでみよう！心理学 相模女子大学人間心理学科 教授 森平直子 氏 感情や人付き合いのしくみを 探る学問。日頃の悩み解決の ヒントを見つけよう！</p>	<p>③学んでみよう！経済学 相模女子大学社会学部経済学科 教授 湊口清隆 氏 お金のしくみを探る学問。た くさんの人が使う鉄道や遊園 地のびっくりネタをゲット！</p>	<p>④学んでみよう！生涯学習 インクルーシブ・リサーチ 参加者 どんな人でも、一緒に楽しむ ことのできる「学び」について 考えてみよう！</p>
--	--	---	---

(①、②、③、④共通コーディネーター：相模女子大学人間心理学科 教授 日戸 由刈 氏)

2. インクルーシブ・ゼミ（全5回）

大学のゼミと連動させたクローズな教室であり、自己理解の深化および相談の成功体験をねらいとする。メンバーは発達障害や知的障害の若者と学生 8 名程度による固定メンバーであり、毎年のインクルーシブ・セミナーの参加者の中から次年度の希望者を選定する。活動内容は、パーソナルポートフォリオを用いた自分の得意なこと・好きなこと・将来の夢等についての交流や、「私のトリセツ相談会」における仲間同士での相談・助言である。全5回の日程および具体的な内容は以下の通りである。

また、メンバーの中から上記のインクルーシブ・セミナーへのボランティア参加の希望者を募り、「なんでも自慢タイム」にピアサポーターとして地域の発達障害や知的障害の若者と学生や市民との交流を促進する役割を担ってもらう。

9月頃	オリエンテーション
10月頃	自分の得意なこと・好きなこと（パーソナルポートフォリオ）
10月頃	私のトリセツ相談会①
11月頃	将来の夢、なりたい職業（パーソナルポートフォリオ）
11月頃	私のトリセツ相談会②

3. インクルーシブ・リサーチ（全8回）

大学の研究活動と連動させたクローズな教室であり、発達障害や知的障害のある若者が、自身の関心を探求するための調査方法や社会への発信の方法を学ぶことによりセルフ・アドボカシーが可能になることをねらいとしている。発達障害や知的障害の若者が、自らの生活を豊かにするための課題と感じている事柄を毎年ひとつ、テーマとして取り上げ、障害当事者、学生、大学教員等が協働して調査研究を行い、その結果をインクルーシブ・セミナーやインクルーシブ・ゼミにフィードバックするとともに、社会に向けて発信する。メンバーは発達障害や知的障害の若者と学生8名程度による固定メンバーであり、毎年のインクルーシブ・ゼミのメンバーの中から次年度の希望者を選定する。

活動内容について、令和3年度は、参加者はプログラム開発のボランティアとして「発達障害や知的障害の若者が大学に求めるニーズの探求」をテーマとし、神戸大学やNPO法人障がい児・者の学びを保障する会（過去に文部科学省委託事業を受託した団体）、社会福祉法人創思苑パンジーメディア（大阪府にある知的障害者のインターネット放送に取り組む事業所）、知的障害者幡ヶ谷教室（渋谷区で知的障害がある15歳以上の人を対象にした仲間づくりのプログラムを行う教室）の見学や視察先講師による講義、外部講師を招聘したワークショップ開催等の体験を通じてチームで意見をまとめ成果報告会等の場で発表し、独自の報告書等の制作を行う。受け身となる事例視察に留めず、本プログラムの目的や成果等を積極的に情報発信するなど相互に交流し合う実践的な学びの機会とする。

全8回の日程および具体的な内容は以下の通りである。

6月頃	自己紹介、プログラムの説明、生涯学習に関するライフストーリーの共有
7月頃	国内の動向・視察先に関する情報提供、 視察準備、視察記録用動画作成のための専門指導（映像・編集）
8月頃	NPO法人障がい児・者の学びを保障する会(i-LDK)視察、視察のふり返し
9月頃	知的障害者幡ヶ谷教室(GAYA)視察、視察のふり返し
10月頃	ワークショップの開催（外部講師の招聘）
11月頃	神戸大学及びパンジーメディア視察（二泊三日）、視察のふり返し
12月頃	報告書（本人向け冊子等）作成に向けた検討、成果報告会の発表内容検討
2月頃	報告書（本人向け冊子等）の完成報告、ふり返し

(2) 連携協議会の開催及び効果的な実施体制や関係部局・民間団体等との連携体制の構築 連携協議会の構成員 ※一部修正

氏名	所属・役職等	備考欄
川口 信雄	(株)はまりハ 顧問	
内野 智之	神奈川県立津久井養護学校 校長	

太田 修二	相模原市教育委員会教育局生涯学習部 生涯学習課 課長	
水野 正人	相模原市教育委員会教育局学校教育部 青少年相談センター 所長	
米山 守	相模原市健康福祉局地域包括ケア推進部 高齢・障害者福祉課 課長	
小泉 剛	社会福祉法人相模原市社会福祉事業団 課長	
薬師丸 和浩	社会福祉法人風の谷第二やまびこ工房 課長	
日戸 由刈	相模女子大学人間社会学部人間心理学科 教授	
狩野 晴子	相模女子大学人間社会学部人間心理学科 准教授	
松崎 吉之助	相模女子大学人間社会学部社会マネジメント学科 准教授	
天野 徹	相模原市立療育センター陽光園 所長	

連携協議会事務局構成員

氏 名	所 属 ・ 役 職 等	備考欄
井上 敏治	相模原市発達障害支援センター 所長	
小林 太郎	相模原市発達障害支援センター 主任	
仁井田 正樹	相模原市発達障害支援センター 主任	
村上 理	相模原市発達障害支援センター 主任	
山口 正人	相模原市発達障害支援センター 主任	
本橋 明彦	相模女子大学事務部 部長	
有田 雅一	相模女子大学夢をかなえるセンター 部長	

具体的な内容

第1回 連携協議会（6月頃）

・発達障害や知的障害の若者にとっての余暇支援の意義について、行政職員、相模原市内の教育・福祉の関係者、有識者の間で共通認識を図る。

・本事業の概要および年間計画を説明する。

・インクルーシブ・セミナーの詳細について案内し、市民及び関係部署への周知を依頼する。

第2回 連携協議会（10月頃）

・事業全体の進捗状況を報告する。

・インクルーシブ・ゼミおよびセミナーでの活動の様子を映像等で紹介し、意見交換を行う

・成果報告会（シンポジウム）について案内し、市民及び関係部署への周知を依頼する。

第3回 連携協議会（2月頃）

・事業成果のまとめおよび報告書案を提示する。

・インクルーシブ・リサーチのメンバーにも参加してもらい、インクルーシブ・リサーチで実施した視察内容を報告し、これらの取り組みを参考に、次年度の事業の方向性について、行政職員、相模原市内の教育・福祉の関係者、有識者で意見交換を行う

・当事者の感想や今後に向けた要望の発表、および当事者の問題意識に基づくプログラム全体の見直し及び次年度の取り組みの提案を行う。

(3) コーディネーター・指導者等の配置

コーディネーターの概要

氏名	所属・役職等
川口 信雄	(株) はまりハ顧問 【略歴】 1979年横浜市立中学校社会科教員採用、1997年～2003年横浜国立大学附属横浜中学校、2004年～2007年横浜市立中学校特別支援学級、2008年～2011年共進中学校通級指導教室、2012年教育委員会指導主事(横浜わかば学園立上げ)、2013年～2017年横浜わかば学園で教務主任・進路専任、2018年9月～2019年(株) ゆたかカレッジ顧問、2020年～(株) はまりハ顧問 横浜最優秀教員表彰 2014年、優秀教職員文部科学大臣表彰 2015年 文部科学省「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」委託事業：共生社会の実現に向けた、知的障害者等への生涯学習プログラムの実践研究 2019年

具体的な内容

- ・コーディネーターは「インクルーシブ・セミナー」、「インクルーシブ・ゼミ」、「インクルーシブ・リサーチ」に参加し、これらのサブプログラムが参加する発達障害や知的障害の若者にとって相応の内容になっているかを視察し、担当スタッフへの指導・助言を行う。
- ・「インクルーシブ・セミナー」では、主に当事者によるピアサポート活動の部分について、当事者へのサポートの仕方や進め方についてスタッフに指導・助言を行う。
- ・「インクルーシブ・ゼミ」、「インクルーシブ・リサーチ」では、それぞれのスタッフおよび参加する一般学生に対して、事前に発達障害や知的障害者の理解や特性についてレクチャーを行い、活動内容や進め方などについて助言を行う。
- ・スタッフ全体に対して、発達障害や知的障害者の理解を深めるための働きかけを行い、見学者を積極的に受け入れ対応する。
- ・相模原市の行政職員、関係部署などと連携を図り、見学者を積極的に受け入れ対応し、本事業の周知や協力支援体制を構築する。
- ・本事業のコーディネーターの専門性や働き方について検討し、関係機関との適切な調整や連携の在り方についてまとめ報告する。

(4) 成果等の普及

- ①日本LD学会自主シンポジウム
 - ・日本LD学会の自主シンポジウムにエントリーし、この事業の意義や現時点までの取り組み内容を報告する。令和3年度は12月に神奈川県で第30回大会が開催される予定である。学会参加者は発達障害や知的障害児者の療育や教育に携わる者、特別支援教育や心理学の専門家、発達障害の当事者やその家族であり、障害者の余暇支援に関心のある者が多数参加している。
- ②事業成果報告会
 - ・市民および当事者団体、相模原市及び近隣の教育・福祉・労働の各関係機関に広く周知し、

この1年間の事業の取り組み（3つのサブプログラムの概要・成果・課題）について報告する。その際、「インクルーシブ・リサーチ」に参加した当事者及び学生にも「発達障害や知的障害の若者が大学に求めるニーズ」について発表してもらう。

③事業成果報告書

・関係機関向けの報告書と当事者及び家族向けの報告書の2種類を作成する。関係機関向けの報告書は相模原市及び近隣の教育・福祉・労働の各関係機関に配付する。当事者及び家族向けの報告書は相模原市内の当事者団体（親の会等）及び教育機関に配布するほか、市及び大学のHPにも公開し、関心のある当事者や家族が広く閲覧できるようにする。

4. 本実践研究事業の実施により得られることが見込まれる成果・効果

(1) 事業の実施により直接的に得たい成果／アウトプット目標

本事業では、相模原市発達障害支援センターと相模女子大学との連携・協働を通じた、発達障害や知的障害の若者に対する新たな余暇の場の開発を行う計画である。インクルーシブ・セミナー、インクルーシブ・ゼミ、インクルーシブ・リサーチという「当事者による後進育成と啓発」を促す3階層モデルを開発することで、次の3つの成果が見込まれる。

1. 発達障害や知的障害の若者と学生や市民との交流、および仲間づくりの促進

・インクルーシブ・セミナーには、1回につき発達障害や知的障害の若者10名程度、相模女子大学の学生及び市民10名程度の参加を見込んでいる。また、毎回のセミナー後半（第二部）では「なんでも自慢タイム」を実施し、ピアサポーターを中心とした交流の時間をつくる。これに参加した若者には、障害の有無に関係なく同世代での交流や仲間づくりの促進が成果として見込まれる。毎回のセミナー終了時にアンケートを実施し、参加者の満足度および要望について調査することで、効果検証を行う。

2. 参加者の精神保健および自尊感情の向上

・インクルーシブ・ゼミ（定員8名）では、自己理解の深化と相談の成功体験の促進をねらいとした活動を行う。これに参加した若者には、精神保健の向上や自尊感情・自己愛の促進、ピアサポーターという社会貢献活動への参加意欲の促進が成果として見込まれる。ゼミの初回前、最終回終了後に「レジリエンス尺度」（平野，2010）および「自己愛人格目録」（小塩，1998）という2つの調査尺度を実施し、効果検証を行う。

3. 当事者主体による後進の育成と啓発

・インクルーシブ・セミナーに複数回参加した者の中から、次年度のインクルーシブ・ゼミへの参加を希望する若者には、インクルーシブ・ゼミへの参加を通じて、新たなピアサポーターとなるための自覚や責任、同世代同士の交流促進のための対人スキルの習得の促進が成果として見込まれる。本人への聞き取り調査を通して、認識の変化について検証を行う。

・インクルーシブ・リサーチ（定員8名）のメンバーは、先進的取り組みの視察やワークショップの企画などを通じて、「発達障害や知的障害の若者が大学に求めるニーズ」について同世代同士のチームで意見をまとめ、シンポジウムなどで発表し、報告書にまとめる。一連の作業を通じて、インクルーシブな社会の実現に向けた働きかけの主体者としての認識や役割意識の促進が成果として見込まれる。発表・報告書作成の遂行、および本人への聞き取り調査を通じた認識の変化について検証を行う。

(2) 事業の実施により終了後（中長期的）に得たい成果／アウトカム目標

1. 当事者の主体性を尊重する活動モデル

・従来の支援モデルでは、支援者が内容を考え、当事者がそれを利用するという構図であった。今回取り組む「当事者による後進育成や社会への啓発」のための3階層モデルは、当事者が支援者と共に考え、やりたいことや必要な支援を自ら発信していく取り組みである。この方法が実現することで、広く「当事者の主体性を尊重する活動」のあり方のひとつのモデルを提示することを目標とする。

2. 発達障害や知的障害の子どもを育てる家族、教育・福祉関係者への啓発

・発達障害や知的障害の若者に対して行う余暇支援として、今回の3階層モデルは、共生社会の実現に向けた市民への啓発の効果も大いに期待される。成果発表を行政とプログラム開発に携わる大学が協働で行うことにより、当事者の意見を市民サービスに反映させることができる。また、発達に特性を持つ子どもを育てる家族や療育関係者、小中学校の教員にとって余暇や仲間関係を楽しみ、自分の考えを社会に向けて発信する若者の存在を知ることは「成人期の豊かな生活」のイメージにつながり、見通しや安心につながる。

3. 大学の場を活用した余暇支援モデルの普及

・今回の3階層モデルは、全国どこでも実行可能な方法論である。今後、学会や論文・書籍などで、この方法論を全国に向けて発信していく。また、先駆的な取り組みを行っている神戸大学と情報交換を定期的に行い、同様の取り組みを行う他自治体や大学とのネットワークを構築する。以上より、発達障害や知的障害の若者に対して大学の場を活用した余暇支援の実践が全国に広がることを期待される。

(3) 本委託事業終了後、事業実施により得られた成果をどのように活用することを検討しているのか。

開発されたプログラムは、委託事業終了後も、相模原市発達障害支援センター及び相模女子大学が実施する事業として継続する予定である。これを前提に、本事業の成果を以下のとおり活用していく。

1. 福祉部局と教育部局の垣根を越えた庁内連携促進

・本事業の取り組み過程や成果を活用して、福祉部局と教育部局の垣根を越えた連携を図る。行政を中心として、大学や関係機関とも連携し地域全体として学校卒業後の障害者の余暇や学びの支援を推進する体制作りを目指す。

2. 公益社団法人相模原・町田大学地域コンソーシアムと協働した周辺大学との連携促進

・本事業（インクルーシブ・セミナー）の協力団体である公益社団法人相模原・町田大学地域コンソーシアムには相模原市周辺の大学が参画している。そこで、将来的には、公益社団法人相模原・町田大学地域コンソーシアムと協働して本事業の成果を相模原市周辺大学にも普及していくことを検討したい。

3. 共生社会実現に向けた普及・啓発

・本事業の成果を活用して、当事者主体による市民への啓発活動の場や当事者も参加するコンファレンス等の拡充を目指す。とくに、療育相談や特別支援教育を受ける子どもの家族やそこで働く教員・支援者をターゲットとして、現在余暇支援を受ける若者のみならず、これから余暇支援につながる若年層に対しても積極的な啓発を行っていきたい。

5. その他（実施団体のこれまでの取組の実績、研究実績、関連する地域の取組等の成果）

相模原市（市発達障害支援センター）においては、発達障害者支援法に基づいた発達障害者への相談支援、発達支援、就労支援を行う他、市発達障害者支援地域協議会を開催して地域連携を図っている。また、世界自閉症啓発デーにあわせて市教育委員会等と連携して啓発活動を行い地域への情報発信を行っている。研究実績としては、余暇活動や仲間づくり、生活スキルを軸とする学齢期を対象とした支援プログラムを開発してきた。

相模女子大学においては、毎年相模原市発達障害支援センターと連携して発達障害の理解や啓発を目的としたセミナー等を開催してきた他、当該大学教員が市発達障害者支援地域協議会の会長を務めており、地域の発達障害者等に関する実情を把握し、関係機関との連携も円滑に行ってきた経過がある。研究実績としては、令和元年度文部科学省「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」の受託により有識者である川口信雄氏（本事業コーディネーター）とともにプログラム開発を行った実績がある。

Ⅱ 実践報告

2021 年度（令和 3 年度）インクルーシブ・プログラム開発事業は「セミナー」、「ゼミ」、「リサーチ」の 3 本で展開した。実施状況および 2021 年度の総括と課題を報告する。

インクルーシブ・セミナー

＜さがまちカレッジと協働で作成したチラシ＞

2021年10月

さがまちカレッジ 特別講座
学ぶことは、面白い -暮らしの中の身近な学び-

相模原市発達障害支援センター共催

【さがまちwebカレッジ】
インクルーシブセミナー
いくつでも、誰でも、共に学びを楽しもう！
～若者も、高齢の人も、障害のある人も～ **全4回**

インクルーシブとは、さまざまな世代、さまざまな特性を持つ人たちが共に過ごすことを意味します。若い人も、ハンディキャップのある人もいない人も、大学のキャンパスで一緒に、「哲学」「心理学」「経済学」「社会学」などを、身近な題材を通して楽しく学んでみませんか？
毎回講義終了後には、若者世代を中心に、仲間同士が興味・関心を共有し交流を楽しむ『なんでも自慢タイム』（ピアサポート）も企画しています。特に若者（中学生以上）のみなさん、ぜひご参加ください！

日時 10月2日（土） 14:00～15:00（参加自由）
1部【講義】
2部【ピアサポート】 15:00～16:00（参加自由）
※各回のテーマに際して、参加者同士で自慢したいグッズや特技をお持ちの方はぜひご参加ください。

開催方法 ビデオ会議ツール「Zoom」を使ったオンライン開催
（ご受講にはインターネットに接続されたパソコン、タブレットが必要です。）

内容・講師 第1回【講義】学んでみよう！「心理学」 / 【ピアサポート】集まれ！音楽好きな人
相模原女子大学人間心理学科 教授 森平 高子 氏（公認心理士・日本音楽療法学会）
「心理学と音楽」をテーマに話し合ってください。音楽は「心の健康」にどんな効果があるのでしょうか？！
（各回共催コーディネーター：相模原女子大学人間心理学科 教授 日戸 由利 氏）

対象 中学生以上の方（相模原市在住・在学・在勤の方優先） 第2回、第3回は11月頃
定員 各20名（応募多数の場合は抽選） 第4回は2月頃開催予定！

参加費 なし 申込期限 9月15日（水）必着

さがまちwebカレッジとは…
ご自宅からインターネットで接続されたパソコン、タブレットなどを使い受講するオンライン講座です。
ビデオ会議ツール「Zoom」を使用したリアルタイムでの講義や「YouTube」を使用した動画配信で講座を行います。

（お申込み方法）
お申込みには必要事項を記入のうえ、郵送またはFAX(042-703-8536)にてお申込みください。または、さがまちコンソーシアムホームページのさがまちカレッジ申し込みフォームに必要事項を入力して、送信してください。

お問い合わせ・お申込み先
公益社団法人相模原・町田大学地域コンソーシアム 住所：〒252-0307 相模原市南区文京2-1-1 相模原女子大学内
TEL:042-747-9038 FAX:042-703-8536 E-mail: info@sagamachi.jp
お問合せ時間：月～金曜日（祝日を除く）9:00～12:00 13:00～17:00
ホームページ: https://sagamachi.jp/

2021年11月

さがまちカレッジ 特別講座
学ぶことは、面白い -暮らしの中の身近な学び-

相模原市発達障害支援センター共催

【さがまちwebカレッジ】
インクルーシブ・セミナー
いくつでも、誰でも、共に学びを楽しもう！
～若者も、高齢の人も、障害のある人も～ **全4回**

インクルーシブとは、さまざまな世代、さまざまな特性を持つ人たちが共に過ごすことを意味します。若い人も、ハンディキャップのある人もいない人も、大学の講義である、「心理学」「経済学」「社会学」などについて、身近な題材を通して楽しく学んでみませんか？
毎回講義終了後には、若者世代を中心に、仲間同士が興味・関心を共有し交流を楽しむ『なんでも自慢タイム』（ピアサポート）も企画しています。特に若者（中学生以上）のみなさん、ぜひご参加ください！

日時 第2回 11月6日（土） 第3回 11月27日（土）
各回とも 1部【講義】 14:00～15:00
2部【ピアサポート】 15:00～16:00（参加自由）
※各回のテーマに際して、参加者同士で自慢したいグッズや特技をお持ちの方はぜひご参加ください。

開催方法 ビデオ会議ツール「Zoom」を使ったオンライン開催
（ご受講にはインターネットに接続されたパソコン、タブレットが必要です。）

内容・講師 第2回【講義】学び！「経済学と創造」 第3回【講義】学び！「哲学とアート」
相模原女子大学社会学科 教授 梶浦 浩二 氏 相模原女子大学人間心理学科 教授 伊東 俊彦 氏
経済学はお金の取り方を考える学問。たくさんのお金を持つ人は、何をどう使うのか？
哲学は、日常のあたりまえを深く考えつづける学問。実はアート創作活動とも関係が深いんです！
（ピアサポート）集まれ！創造好きの人 （ピアサポート）集まれ！アートが趣味の人
（各回共催コーディネーター：相模原女子大学人間心理学科 教授 日戸 由利 氏）

対象 中学生以上の方（相模原市在住・在学・在勤の方優先）

定員 各回20名（応募多数の場合は抽選） 第4回は2月頃開催予定！

参加費 なし 申込期限 10月20日（水）必着

さがまちwebカレッジとは…
ご自宅からインターネットで接続されたパソコン、タブレットなどを使い受講するオンライン講座です。
ビデオ会議ツール「Zoom」を使用したリアルタイムでの講義や「YouTube」を使用した動画配信で講座を行います。

（お申込み方法）
お申込みには必要事項を記入のうえ、郵送またはFAX(042-703-8536)にてお申込みください。または、さがまちコンソーシアムホームページのさがまちカレッジ申し込みフォームに必要事項を入力して、送信してください。

お問い合わせ・お申込み先
公益社団法人相模原・町田大学地域コンソーシアム 住所：〒252-0307 相模原市南区文京2-1-1 相模原女子大学内
TEL:042-747-9038 FAX:042-703-8536 E-mail: info@sagamachi.jp
お問合せ時間：月～金曜日（祝日を除く）9:00～12:00 13:00～17:00
ホームページ: https://sagamachi.jp/

インクルーシブ・セミナー

解説

誰でも参加可能な市民向けセミナーとして講義中心に開催し、興味関心に合う講義を通して、発達障害や知的障害のある若者と市民との交流を促した。各回の流れは二部構成で進行した。第一部は発達障害や知的障害の若者にとって興味・関心があると想定される講義（心理学・経済学・哲学）を受ける時間（1時間程度）、第二部は参加者が自分の興味・関心を通して交流する「なんでも自慢タイム」（45分程度）とした。第二部には、「インクルーシブ・ゼミ」のメンバーがボランティアとしてピアサポーター役となって参加者同士の交流を促進した。特に、4回目は特別編として、「インクルーシブ・リサーチ」のメンバーが登壇して、調査の成果を踏まえた“インクルーシブな学び”について参加者と共有する。ゼミやリサーチのメンバーがセミナーの参加者と交流し、講義内容にも携わることでインクルーシブ・プログラム全体の循環を促す。

スケジュール ※全てオンライン開催

	実施日	テーマ	講師・発表者
第1回	2021年10月2日	学んでみよう「心理学」 ／集まれ！音楽好きの人	相模女子大学人間心理学科 教授 森平 直子 氏
第2回	2021年11月6日	学んでみよう「経済学」 ／集まれ！鉄道好きの人	相模女子大学社会マシメント学 科 教授 湧口 清隆 氏
第3回	2021年11月27日	学んでみよう「哲学」 ／集まれ！アートが趣味の人	相模女子大学人間心理学科 准教授 伊東 俊彦 氏
第4回	2022年2月12日	特別編 「私たちが考える！ みんなが学びたいと思える 大学とは？」	インクルーシブ・リサーチの 参加者（ファシリテーター 相模女子大学人間心理学科 准教授 狩野 晴子 氏）

※報告書作成時点では、第1～3回まで実施済。

スタッフ体制

企画・運営： 相模原市発達障害支援センター 職員

協力： 相模女子大学人間心理学科 教授 日戸由刈

助言： コーディネーター 川口信雄

※第1回から第3回までは、「インクルーシブ・ゼミ」の参加者にボランティアとしてピアサポーター役を、第4回は「インクルーシブ・リサーチ」の参加者に発表者を、それぞれ依頼した。

実施報告

第1回 学んでみよう「心理学」／集まれ！音楽好きの人

<内容>

音楽療法を中心に、音楽と心の関係について解説があった。モーツァルトの曲や駅のチャイムなど身近な音楽を題材に音楽による脳の活性化や同質の原理等についてわかりやすく学んだ。第二部では、参加者からピアノやギターの演奏、歌の発表があり交流を行った。

<受講者数>

第一部24名、第二部17名

<アンケート概要>

20名から回答があった。9名の方が、福祉サービス等を利用したことがあると回答した。

○良いと思った点（抜粋）

- ・わかりやすいお話でした。難しい言葉も使用されず、とてもわかりやすかったです。
- ・参加者の方の歌や演奏が聴けて楽しかったです。
- ・二部構成、インクルーシブという考え方

○改善したほうが良いと思った点（抜粋）

- ・時々音声が途切れた
- ・申込方法が知的障害の人にはやや難しい。周知の期間が短すぎる。

第2回 学んでみよう「経済学」／集まれ！鉄道好きの人

<内容>

鉄道会社の取り組みを中心に、経済学について解説があった。駅ナカや観光列車等を題材に鉄道運賃の仕組みや収入増加の戦略、コストカットの実際についてわかりやすく学んだ。

第二部では、参加者から鉄道の写真や鉄道関係のグッズの紹介があり交流を行った。

<受講者数>

第一部21名、第二部18名

<アンケート概要>

16名から回答があった。9名の方が、福祉サービス等を利用したことがあると回答した。

○良いと思った点（抜粋）

- ・写真がたくさんあって分かりやすかったです。
- ・今まで知らなかった鉄道の運賃ルールについて知る事が出来た事。
- ・講座の参加者にも発言や発表の機会があること。

○改善したほうが良いと思った点（抜粋）

- ・もう少し参加者発表や交流の時間を長くとったほうが
多くの方がよりその場に参加しやすく、楽しめると考えた。

第3回 学んでみよう「哲学」／集まれ！アートが趣味の人

<内容>

アートを中心に、当たり前を問い直すことや自由について解説があった。演奏や写真などの作品を題材にアール・ブリュットの考え方やものの見方についてわかりやすく学んだ。

第二部では、参加者が作成した絵や写真の発表があり交流を行った。

<受講者数>

第一部28名、第二部22名

<アンケート概要>

25名から回答があった。11名の方が福祉サービス等を利用したことがあると回答した。

○良いと思った点（抜粋）

- ・難しすぎず、内容がまとまっていたのでとてもわかりやすい講座でした。
- ・富士山を描くなど息抜きが入っていて、終始楽しく聴くことが出来た。
- ・ピアサポートの時間で、色々な方のアートを見ることができた点。

○改善したほうが良いと思った点（抜粋）

- ・こちらがリアクションスタンプなど出来るとより楽しく学ぶことが出来ると思います。
- ・もっと周知が広くされると参加者が増えると思います。

2021年度の総括と今後の課題（インクルーシブ・セミナー）

相模原市発達障害支援センター 小林 太郎

2021年度の活動のまとめ

知らなかったことを知ることや人や社会とつながることは、健康で生きがいのある生活を追求する基盤となる。こうした機会はすべての人に開かれていることが重要であると考え、本セミナーはインクルーシブ・プログラム全体の入口と位置付けて企画した。これまで、学びや交流の機会が少ない方でも、参加しやすくなる仕組みとして、申し込みは各回で行い、興味のある講座のみに参加できるようにした。さらに、他者との交流に苦手さがある方には、第一部の講義のみの参加でも可能とした。結果としては、1回のみでの参加ではなく、複数回参加される方が多く、自由参加とした第二部にも多くの方が残り交流を楽しんでいる様子が見えてきた。

第一部では、発達障害支援センターでのこれまでの臨床経験に加えて日戸教授、川口コーディネーターからの意見も踏まえて、発達障害のある方が比較的興味をもっていると想定されるテーマを選定した。講師は、2019年度の実践研究事業において障害のある方への講義経験をお持ちの大学教員3名に依頼し、事前に合理的配慮について確認のミーティングを行った。具体的には、話の手がかりを明示することで聴覚情報の統合に配慮することや、スケジュール提示や時間の明確化により注意の持続へ配慮することなどを講師と事前に共有した。各回のアンケートでは、「わかりやすかった」という意見が多数あり、合理的配慮についての事前ミーティングに一定の効果があったものと考えられる。

第二部では、第一部の講義内容に沿ったテーマで他者に披露したいことや自慢したいことを参加者から募った。ピアサポーターとしてインクルーシブ・ゼミ参加者の協力も得て、各回3名程度に披露していただき、終了時間が延長するほど盛況であった。身近な家族や友人だけでは理解を得にくいようなマニアックな趣味であっても、同じテーマに関心のある参加者同士においては相互に共感しやすい様子が見えてきた。自分の好きなこと得意なことを否定されることなく、共感をしてもらえる環境を体験する機会は、学びや交流の入口という本セミナーの趣旨とも一致する結果が得られたと考えられる。

2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響から、すべての回をオンライン開催とした。オンラインでは、対面よりも参加者同士の交流が難しいのではないかと予想していたが、参加されたほとんどの方が顔出しをされており、積極的な発言もみられ、終始和やかな雰囲気での交流することができた。カメラをオフにして顔出しをしなかったものの最後まで参加されている方もおり、積極的な交流が苦手という方でも、参加者同士の交流の様子を楽しむことができたのではないだろうか。交流に際して、ピアノやギターの演奏のように対面での交流では気軽に披露することが難しい内容であっても、自宅からのオンライン配信や動画配信により参加者間で共有することができた。他にも、鉄道写真やアート作品など、画面共有機能を用いることで、対面よりもじっくりと鑑賞することができた。このようにオンラインならではの交流によるメリットは多くあったと感じる。

課題

一方、セミナーへの参加について、オンラインに慣れない方には参加が難しいといった指摘があった。オンライン参加に係る合理的配慮のうち、申込や入室操作などについては、次年度への課題と考えられる。

また、オンラインゆえに“隙間の時間”をもつことも難しかった。“隙間の時間”とは、対面の研修会等でよくあるような、休憩時間や終了後に参加者同士が自主的に交流できる機会を意味する。このような時間を設けることは困難であり、ピアサポートの充実に向けた課題となった。

最後に、インクルーシブ・プログラム全体と同様に、本セミナーにおいても、障害のある方の“ために”ではなく、“ともに”学び、交流するスタイルを重要と考えてきた。アンケートでは、各回参加者のおよそ半数近くが障害のある方と想定できた一方で、公民館等を中心に広く周知をしてきたこともあり、これまで障害のある方と全く関わってこなかった方も多く参加していたと考えられる。交流の中では、「手帳を取得して、特例子会社に勤めています」と自己紹介する方もおり、聞きなれない言葉に驚く参加者もいた。

しかし、アンケートの満足度の高さ等から推測すると、同じ興味関心のあることを学び、同じ興味関心のあることを披露しあって楽しむ時間を“ともに”過ごしたことは障害の有無にかかわらずとも充実感のある時間となったのではないだろうか。合理的配慮等により、発達障害のある方が参加しやすくなるように努めてきたが、これまで、障害のある方と関わってこなかった参加者においても多様な生き方を感じ、新たな学びや交流を深める入口になるインクルーシブなセミナーになったのではないかと考えられる。今後は、講師と障害のある参加者、障害のない参加者をつないでいくという役割をさらに意識し、よりインクルーシブなセミナーとなるような仕組みをつくっていくことを目指していきたいと考えている。

インクルーシブ・ゼミ

<参加者募集のための案内>

どんな人が参加するの？

サガジョ生：人間心理学科の3年生4名が、みなさんと会うのをとっても楽しみにしています

勤労青年：学校を卒業した社会人の男女4名が参加します。社会のこと、いろいろ教えてくださいな！

先輩たち：昨年度ゼミに参加したサガジョ生2名（ひとり卒業生）、勤労青年2名がメンター役で参加します。

ゴリさん：本名は川口信雄。ゼミのアドバイザー、盛り上げ役です。

日戸：ゼミの責任者です。

スケジュール（全5回）

土曜日の10時から12時に行います。

第1回：9/18 トーキングゲーム

第2回：10/2 好きなこと・得意なこと

第3回：10/23 私のトリセツ相談会①

第4回：11/6 夢・なりたい職業

第5回：11/27 私のトリセツ相談会②

【会場】相模女子大学8号館834教室
※緊急事態宣言の場合はオンラインで開催します。初めての人は、第1回でやり方を教えます。

**相模女子大学
インクルーシブ・ゼミ
2021 ご案内**

仕事は慣れてきたけど人生をもっと豊かにしたいと思っている人、大学で学びたいと思っている人、これから仕事につきたいと思っている人、いろいろな立場・経験の同士が集まって、自分のこれからの人生（キャリア）について、したいこと、心配なこと、わかってほしいことなど、意見交換してみませんか？





ゼミでやること（1）

パーソナルポートフォリオを各自用意しましょう。そして、「好きなこと・得意なこと」、「夢・なりたい職業」を見せ合うことで、お互いの理解を深めましょう。相手を知ることが、親くなるための第一歩です。

あ、ハロウィン！



オプション企画

その1：インクルーシブセミナー
10/2、11/6、11/27の3日間、14時から16時まで、オンラインで開催します。午後も大学に残ってお手伝いしてくれる人 募集中！

その2：川口先生の特別授業
12/4（土）午前中は、ゴリさんが大学で授業を行います。みんなていっしょに、ゴリさんの授業にもぐりこんでみませんか？



ゼミでやること（2）

パーソナルポートフォリオでは、「私のトリセツ」もつくります。それを基に、小グループに分かれて「トリセツ相談会」に挑戦してみましょう。同世代の仲間のコメントから意外な発見があるかも！

サガジョ生もマニアックじゃの～



インクルーシブ・ゼミ

解説

大学のゼミと連動させたクローズな教室であり、自己理解の深化および相談の成功体験をねらいとする。メンバーは発達障害や知的障害の若者と学生8名程度による固定メンバーであり、コロナ禍のため、コーディネーターの元職場の教え子を紹介していただいた（全員、障害者雇用）。活動内容は、パーソナルポートフォリオを用いた自分の得意なこと・好きなこと・将来の夢等についての交流や、「私のトリセツ相談会」における仲間同士での相談・助言とした。

ゼミのゴールは以下の3点とした：(1)自分を知り自己理解を深めるためにパーソナルポートフォリオを制作する。(2)心を開いて自分について語る。(3)自分の悩みや困りごとについて相談し、お互いにアドバイスする。

※パーソナルポートフォリオとは

自分のプロフィール、学び経験し身に付けてきたことなどを1冊のクリアファイルにまとめたもので、その制作過程で対話の中から自分を発見すると共に自己開示の経験も積むことができる。以下の内容を含む：①好きなもの・興味のあるもの、②得意なもの・資格や表彰、③わたしのトリセツ（自分の特性）、④夢・職業。

スケジュール

	実施日・場所	活動内容の概要
第1回	9/18・自宅 10:00～1200	オンライン：ガイダンス、自己紹介、「トーキングカード」
第2回	10/2・自宅 10:00～1200	オンライン：「好きなもの、得意なもの」発表会（全体）
第3回	10/23・自宅 10:00～1230	オンライン：「わたしのトリセツ」相談会①（2グループ）
第4回	11/6・自宅 10:00～1210	オンライン：「夢・なりたい職業」発表会（全体）
第5回	11/27・大学 10:00～1225	大学 834 教室：「わたしのトリセツ」相談会②（2グループ）
特別授業編	12/4・大学 10:40～12:10	大学 711 教室：「知的障害・発達障害の人たちへの青年期の心理社会的支援」（知的障害児の心理・第10回、外部講師：川口）の聴講

スタッフ体制

- 企画・運営： 相模女子大学人間心理学科 教授 日戸由刈
指導者： (株)はまりハ 顧問 川口信雄
メンバー： 勤労青年4名、相模女子大学3年生4名（日戸ゼミ）
メンター： 2020年度のゼミに参加した勤労青年2名、大学4年生・卒業生計2名
協力： 東京学芸大学大学院 武部正明・相模原市発達障害支援センター 小林太郎

実施状況 実施報告に述べる通り。

日本LD学会第30回大会(2021)にて発表 「相模女子大学におけるインクルーシブ・ゼミ」(川口信雄)

インクルーシブ・ゼミは今年で3年目

- ①令和元年度はゆたかカレッジの青年が参加
文科省令和元年度「障害者の多様な学習活動を社会的に支援するための実践研究」
- ②令和2年度は手帳就労している勤労青年4人が参加。
新型コロナウイルス感染対策のためすべてオンライン実施
- ③令和3年度も特別支援学校高等部出身の勤労青年が参加
 - ・勤労青年は22歳の男性2人女性2人
 - ・相模女子大生は3年生4人
 - ・**×ンター**：勤労青年2人、大学4年1人、大学卒業生1人
 - ・授業は日戸教授と川口が協働ですすめる


NoBus Kawaguchi 1

インクルーシブ・ゼミのねらい

- ①勤労青年：同世代とのコミュニケーションスキルの向上
- ②大学生：社会の中で自然にサポートできる力の養成
- ③双方：自己理解の深化
そのツールがパーソナルポートフォリオ

2

パーソナルポートフォリオとは



- ・自分の特徴やプロフィール、実績、夢や願いなどを1冊のクリアファイルにまとめたもの
- ・制作過程で自己理解の深化がはかれる。対話がかぎになる

インクルーシブ・ゼミの流れ(全5回)

- 第1回 ガイダンス・自己紹介
- 第2回 好きなこと・得意なこと発表会
- 第3回 わたしのトリセツ相談会①
- 第4回 夢・なりたい職業発表会
- 第5回 わたしのトリセツ相談会②

4

第2回 好きなこと・得意なこと発表会



パーソナルポートフォリオを手に

私は仮面ライダーシリーズが大好きで、変身ベルトも持っています！

5

好きなこと・得意なこと発表会

自己理解支援のポイントは本人の思いや願いを尊重すること。だから「好きなこと」が入口！

【勤労青年】
私と好きなものが共通している方がたくさんいらっしやっただけ嬉しかった

【大学生】
自分が話している時に、うなずきながら笑ったりしてくれるのが画面越しでもわかって、とてもうれしかった
◎発表会は「発見と共感」が行き交う時となった

卒業生に会うと、たずねること

休みの日はどうしてますか？

乗リ鉄 カメラ

大丈夫、やっていけそう 余暇が充実している人は折れにくい

日本LD学会第30回大会(2021)にて発表 「相模女子大学におけるインクルーシブ・ゼミ」(川口信雄)

インクルーシブ・ゼミのメインプログラム
「わたしのトリセツ」相談会

③現在職場で困っていることや、将来困りそうなことについて相談する。「わたしのトリセツ」が相談ツール

①どんな場面でどんなことに困っているか(困りそうか)?

②自分にできる対策は何か?

③周囲にお願いしたいことは何か?

ねらい

①自分の困りごとについて心を開いて相談する
②他者の困りごとを共感的に受け止め、アドバイスする

Nobuo Kawaguchi 7



黒色は本人からの相談内容で、困っていること、自分でできる対策、周囲にお願いしたいこと

困っていること	自分でできる対策	周囲にお願いしたいこと	みんなからのアドバイス
予想外の残業	仕事を早めに済ませる。	上司や先輩に手伝いをお願いしたい。	スケジュールが狂ってしまわないよう、余裕を持って相談する。問題を一人で抱え込まない。
急な命令 集中している時困る	しょうがないからやる。	感謝の気持ちを伝えてほしい。	職場環境に早く馴染んでいけるように相談する。問題を一人で抱え込まない。

青色はゼミ仲間からのアドバイス

赤色は相談後の本人の感想

勤労青年からの相談は「予想外の残業を命じられる」「作業に集中している時に上司から別の仕事を頼まれる」など具体的に実際の相談が多い

Nobuo Kawaguchi 9

大学生の相談は「同世代の人とのコミュニケーションが苦手」など人間関係に関する相談が多い

「話してみても合わない人は頑張りななくていい」と言ってくれたり、ハッとしました。大学生の感想

かんぱり きまじ つかれたほう	この中で 立ち止まら 自分と向き合 う	費用がしずか ないけれど 大丈夫と思わ れていい	「かんぱり」って ほどよくして 。人の心、自分のことと向き合 。中学生の時も同じようにして 。気づいて11月の相談しなかった
優先順位 かまがなくて なる	周囲に 相談 する	周囲から 声をかけて 欲しい	「周囲に相談することは ない」 。「鬼滅の刃」の話をしてみよう と。思っ
同世代の コミュニケーション が苦手	自分から 話しかけ てみる	相手から 話しかけて ほしい	「鬼滅の刃」の話をしてみよう 。自分と向き合 。人の心、自分のことと向き合

自分から声をかける努力は大切。声をかけて合わないと思ったら、それなりに付き合えばいいだけ！ 勤労青年アドバイス

10

11月に対面の機会が実現(2020.11.28)

話が尽きず昼食も忘れて語り合う。そこには「青春を謳歌する若者の姿」が!

パーソナルポートフォリオ

Nobuo Kawaguchi 11

インクルーシブ・ゼミのねらいは達成できたか?

①勤労青年：同世代とのコミュニケーションスキルの向上
土曜日に大学生と一緒にゼミで学ぶという経験は新鮮な刺激に満ちており、コミュニケーションスキルの向上に止まらず、生活上のマンネリ感の解消や余暇の充実にも貢献した

②大学生：社会の中で自然にサポートできる力の養成
今年度のゼミでは、昨年度のゼミ参加者がメンターとして活躍中

③双方：自己理解の深化
対話の中で自己理解が深まり、パーソナルポートフォリオは現在も進化中

12

第1回 :活動概要と参加メンバーの感想 (インクルーシブ・ゼミ)

活動概要

実施日 9/18 実施場所：各自宅

本時のねらい：1 インクルーシブ・ゼミのねらいと予定を知る

2 お互いのことをよく知ることを通して関係性を深める

時間	活動
9時00分	打ち合わせ① (川口・日戸・武部) ①共有：日戸 PP・川口 PP ②事前配布物 (メール)：「ポートフォリオ記入用紙」、「同意書」、「PP 配布物 (日戸・川口)」 ③青年は2冊の「クリアファイル」を色違いで用意する
9時30分	打ち合わせ② (メンターも参加)
9時55分	設定確認
10時00分	ゼミ開始 (オンライン) インクルーシブ・ゼミのねらいと予定、本時の流れを伝える 見学者の受け入れや研究協力について G フォームで同意を得る (日戸)
10時15分	自己紹介 (川口)
10時25分	トーキングゲーム (川口)
10時45分	パーソナルポートフォリオについて (川口) PP
11時00分	メンター4人がポートフォリオを示しながら「好きなこもの・得意なもの」を発表する。1人5分以内。 「①自分の好きなもの・興味のあるもの」、 「②自分の得意なもの・資格・表彰」についてシートに記入する
11時30分	今日のふり返りと宿題、次回予告 (川口)
11時50分	・ふり返り記入について→メールに直書きし、川口に送信する
12時00分	終わりの言葉 (日戸)
12時15分	ふり返り① (日戸・川口・武部・メンター)
12時30分	ふり返り② (日戸・川口・武部) ・相模原市発達障害者支援センターの方から感想をいただく

参加メンバーの感想

●今日はありがとうございました。トーキングゲームではみんなの好きなものや好きなアーティストの話が聞けて楽しかったです。パーソナルポートフォリオではみんなの趣味を聞けて、自分は何を書くかの参考になりました。これからパーソナルポートフォリオで紹介したいものを集めようと思います。次回もよろしくお願いします。

●インクルーシブ・ゼミお疲れ様でした。最初は少し緊張して話したり、他の方が発表している時も反応をする事が出来ませんでした。でも、トーキングゲームをした頃から、少しずつ笑顔やうなずいたりして反応出来て良かったなと思いました。次回は、自分好きな物の発表の時に色々な画像を見せたら良いなと思います。今日はありがとうございました。

●今日初めて参加しましたがトーキングゲームや発表の感想でいろんな人と会話したり発表を聞いたりしたのが楽しかったです。共通点を見つけることもできたのでそれも楽しかったです。自分をさらけ出すのは、以前は難しく出来なかったのですが、さらけ出して共通点を見つけるのは楽しそうだと思います。次回第2回目は欠席ですが、第3回に参加するのが楽しみです。

●こんにちは今日は参加する事が出来てとても楽しかったです。今日は参加する事が出来てとても楽しかったです。相模女子大の皆さんやわかば学園の時の仲間達と趣味の話など出来てとても充実した時間を過ごす事が出来ました。

仮面ライダー好きの相模女子大の学生さんがいて嬉しかったです。趣味が同じの人と会うと嬉しいものですね。10月も楽しみにしています。どうぞよろしくお願い致します。

●このような内容の企画に参加するのは初めてで、雰囲気も分からないままだったので最初は緊張していました。清野さんと岩本さんが場を盛り上げてくださったので徐々に慣れる事が出来ました。トーキングゲームは時間の都合上1周だけしか出来ず、皆さんが様子見のまま終わってしまったように感じました。次回以降時間が許すのならばまた開催してほしいです。出来れば2周以上できると今回より盛り上がりそうです。メンターの方のポートフォリオの発表に対しては、何回か反応をする事が出来たので次回の全員が発表する場でも反応して盛り上げる事が出来ればと思います。今回のゼミナールでは多く発言していたいわもとさん、清野さんがとても印象に残っています。声の大きい人や発言の多い人のみが印象に残ってしまっているのので、次回からは発言の少なかったおのさん、かとうがわさん、ながやまさんにも目を向けて、各々の印象を掴んでいきたいと思いました。こんどうさんに関しては、ポートフォリオにて共通点が見つかり、そこが印象に残っています。ポートフォリオの利点を感じる事が出来ました。川口さんが共有して下さった合唱の動画では、全員が前を向いて一生懸命歌っている姿に心を打たれました。また、コロナ禍でこのような光景を見る事が少なくなっているのとても新鮮に感じました。思っていた以上に楽しいものでした。

●今回、初めてインクルーシブ・ゼミに参加して緊張していたのですがとてもリラックスして楽しむ事が出来ました。特にトーキングカードをすることによって緊張が和らいだなと感じます。次回は、ポートフォリオの発表なので自分を知らせてもらえたら嬉しいなと思います。

●今日は、メンターの方々のパーソナルポートフォリオの好きなことをみて、みんなそれぞれ自分の本当に好きな物を包み隠さず載せている感じがしました。ゴリさんが、オタク大歓迎と言ってくれていたのが印象に残っています。私も次回は好きな物を包み隠さず話せるようにしたいと思います。また、今回初めてで緊張してしまい、自分から発言するのが難しかったので、次回はもっとみんなのポートフォリオにつっこんでいけるといいなと思います。

●初めてのインクルーシブ・ゼミで朝からとても緊張していてガチガチだったのですが、実際に始めてみると皆さんとても明るくて、反応も凄いい返していたのでこの空気感なら大丈夫かと思えました。次は、自分の好きな物や得意な事を発表する日で自分の趣味などを話す事は恥ずかしいですが、武部さんも「自分の好きな物は価値になる」とおっしゃっていたので恥ずかしがらず自分を知ってもらいながら、皆さんの事も沢山知り仲良くなれたら良いなと思います。また、今回は自分から反応することが出来なかったので次は1回でも自分から話せる事を目標にしたいです。

す！

◎ 指導者ふりかえり (川口)

初っ端から Zoom に入れない青年が小パニックに陥り、ヒヤヒヤしましたが、日戸先生の機転で Zoom の情報をメール再送していただき、そのお陰もあり全員参加することができて本当に良かったです。彼らにとって馴染みのない Zoom はお試し会までしてもハードルが高いと痛感しました。オンライン形式のセミナーまでに手立てを工夫する必要があります。また、PP に添付した動画が動かないトラブルに関しては、武部サポーターの「重い動画は Zoom の共有上ではうまくいかないことがある。動画を直接共有するとよい」とアドバイスいただいたおかげで動画再生することができました。初回からチームインクルゼミが機能したいと思います。感謝です。

第 2 回 :活動概要と参加メンバーの感想 (インクルーシブ・ゼミ)

活動概要

実施日 10/2 実施場所：各自宅 (欠:今藤・小野)

本時のねらい：1 自分をふり返り、強みを発見する

2 お互いのことをよく知ることを通して関係性を深める

欠席：メンバー1名 (土曜日出勤のため)、勤労青年メンター1名 (家の都合)

時間	活動
9時00分	打ち合わせ① (川口・日戸・武部) 共有：わたしのトリセツ (Excel)
9時30分	打ち合わせ② (メンターも参加)
9時55分	設定確認
10時00分	本時の流れ (日戸)
10時10分	好きなもの得意なこと発表会 (川口) 順番に「好きなもの・興味のあるもの・得意なものなど」について、ポートフォリオを見せながらプレゼンする。(1人5分以内) プレゼン時は「スピーカービュー&ミュート」、質疑応答時は「ギャラリービュー」。7人×10分=70分 (質疑応答も含む) 【休憩5分】
11時25分	「わたしのトリセツ」について説明 (川口)
11時35分	「わたしのトリセツ」を書く
12時00分	おわりの会 (日戸) 「午後のセミナーの案内」
12時05分	活動終了
12時10分	ふり返り① (日戸・川口・武部・メンター)
12時30分	ふり返り② (日戸・川口・武部) ・夕方、小野さんへトリセツの説明をする (川口)

参加メンバーの感想

●インクルーシブ・ゼミお疲れ様でした。今日のパーソナルポートフォリオの発表はリモートだったので、資料を見せる時の距離感が難しく少し大変でした。今後は、鉄道イベントとかで買ったグッズのコピーも取ってファイリングしていこうと思います。

●今日はありがとうございました。パーソナルポートフォリオの発表では同じ趣味を持っている方がいて嬉しかったです。また、色々な方のお話を聞いて嬉しかったです。私のトリセツもこれからゆっくり考えてみようと思います。次回もよろしくお願いします。

●昨日は皆さんと好きな事や好きな物トークをさせていただき、皆さんから質問をしてもらい興味を持ってもらって嬉しかったです。加登川君が電車好きな事は、わかば学園の時から知っていましたが、加登川君の電車好きな所がさらに分かりました。また相模女子大の学生さんに車好きな方がいて、共通の趣味がある人と会うと嬉しいなと思いました。ディズニー好きな方の話では僕もディズニーランドにずっと行きたいと思って行ったのでとても興味が持てました。皆さんそれぞれ好きな事や好きな物があって、話を聞くのは楽しいなと思いました。そして人と話をする事はとても大切な事だと思いました。また話したいです。次のゼミでも皆さんの話を聞いたり、自分も上手く話がしたいです。どうぞよろしくお願ひ致します。

●前回、次のインクルーシブ・ゼミでは自分から発言するという事を目標にしていたので、絶対に1回は手をあげたいと思っていたのですが最後の最後まで色々考えてしまってなかなか手を挙げられませんでした。ですが、長山さんと好きなものが同じで、聞きたいことが自然と思いついたので質問できて、1回でしたが目標を1つクリア出来たので良かったです。

本当は、「今週はインクルーシブ・ゼミだから緊張する」と2回目も思ってしまっていたのですが、皆さんの好きなものや得意なことを聞いて少しずつ知れていけたり、色々な情報交換も出来て、前回より確実に心を開けている気がするので、次のインクルーシブ・ゼミはとても楽しみです。次回も、目標を決めて楽しみながら頑張っていきたいと思います。

●今日は、自分のポートフォリオを紹介して少しでも自分を知ってくれていたら嬉しいなと思います。他の方の話を聞いて、好きなものが同じ人がいたりして嬉しかったです！また質問をすることによって更にこの様な部分も好きなんだと知れる事もあったので、ただ発表を聞くだけではなく質問して会話を広げることも大切だと感じました。本日はありがとうございました。

●自分の事を凄く話せているなと思ったのは北島さんでした。深くまで色々話していて開示をするのが上手いと感じました。かとうさんは電車に乗る・撮る為に色々な場所に出かけていてとてもアクティブだと感じました。私は外に出る事があまり得意ではないので凄いなと思いました。シンガポールに興味を持った時に旅行に連れて行ってくれたという事を聞いてとても優しい御両親だと感じました。清野さんの年号を覚えるという特技は、起こった事の年号を言う事が出来る(シドニーオリンピック→2000年)かと思っていたのですが逆引きも出来ると知ってとても驚きました。しっかりと覚えているからこそ出来る事だと思います。度々父と一緒に…という話が出てきていて、父親と仲が良い事が感じられました。

ながやまさんは Hey! Say! JUMP 一筋という事がしっかりと伝わってきました。ライブを観る事に加えて雑誌も買っていて筋金入りだと感じました。スズランテープでバッグといった作品とき

ちんと作っていて、ただ編むだけで作品が完成しない私とは大違いだと思いました。発表では無いのですが、岩本さんの背景芸がとても上手いなと思いました。また、ジャニーズの話から自分の眼鏡への話の繋ぎ方を見て引き出しが多いと感じました。そうやって場を盛り上げていけるのは岩本さんの凄い所だと思います。勤労青年側と学生側の垣根を超えて質問し合っていて全体的に和気あいあいとしていたのではと感じています。今回は積極的に質問をして相手の発表の肉付けが出来たのではないかと思います。小井土さんの発表の時にながやまさんにも質問をしてしまったのは迷惑だったかもしれないと反省しています。対面のポートフォリオの発表と違って、発表時に相手の反応が見えづらく少しやりづらさを感じました。スピーカービューで発表していたので、ギャラリービューの方が反応が分かりやすかったかもしれないと感じています。ポートフォリオは紙だからこそ意味を成すとは思いますが、折角の zoom なので共有等の機能も活用していきたいと思いいろんなような手段をとりました。

電車で疎いのでどこから乗れるか等分らない事も多いですが、いつもと違う乗り心地を味わう為にぜひ小海線に乗ってみたいと思いました。次回は相談会になるので、色々な意見を出せるようにしていきたいです。

●みなさんの好きな物や趣味を聞いて、とても楽しかったです。特に、自分と共通の趣味があったり、知ってるものがあるとすごく興味が出ました。また、みんなの資格の話聞いて良かったです。なにか就活のために取らないといけないと思いつつも行動出来ていないので、実際に取った人の話を聞いて私も頑張ろうという気持ちになりました。今回は自分から積極的に話すことができたと思うので、次回も頑張りたいと思います。

◎指導者ふり返り（川口）

ゼミが進行するにつれて、積極的に発言する方が増え、終盤は僕が進行しなくてもメンバー同士で対話が弾んできた。あの瞬間は進行役として嬉しかった。午後のセミナーにも皆参加し、加登川さんは独唱も披露してくれた。改善としてはセミナーのコーディネーターは相模原市の方が担当することがあげられる。人材を育てるためにも。本セミナーは神戸大学の「よりよく生きるための科学と文化」と似ている。大きな違いは大学関係者以外の方がコーディネーターを担当し、大学教官に上手にツッコミを入れながら、参加者と大学教官を繋いでいた。

第3回 :活動概要と参加メンバーの感想 (インクルーシブ・ゼミ)

活動概要

実施日：10/23 活動場所：各自自宅

本時のねらい：1 自分の悩みを相談する経験をする

2 自分の強みを活かした対策や周囲への支援について考える

欠席 サガジョメンター2名 (土曜日出勤、資格取得のため)

時間	活 動	
9時00分	打ち合わせ① (川口・日戸・武部)	
9時30分	共有：わたしのトリセツ	
9時55分	打ち合わせ② (メンターも参加) 設定確認	
10時00分	全体活動 (ミーティング・ルーム A) ・本時の流れ (日戸) ・小野「好きなもの得意なもの」発表 (質疑入れて10分) 本日は「ギャラリービュー」のみまで進行する。	
10時20分	Aグループ：(進行) 北島、小井土、小野、清野、今藤、日戸 (記録) (ルーム A のまま) ・「10 月中にあった楽しい出来事」について順番に話す	Bグループ：(進行) 山根、生方、加登川、長山、岩本、武部 (記録) (ルーム B に移動) 左に同じ
10時30分	「わたしのトリセツ」相談会 (1人20分) 社会に出た時に、 ①どんな場面でどんなことに困るか ②自分にできる対策 ③周囲にお願いしたいこと	
11時30分ころ ※3人終了後、トイレ休憩 (5分)	◎進行役の山根、北島は最後に自分の相談をする。その時は生方、小井土が進行する。 ※青：アドバイス、赤：本人の相談後の感想 ※「相談記録」は日戸から本人に送付。各自印刷しポートフォリオに入れる。 まとめ (日戸)	
12時10分	時間があれば、雑談タイム	Aに戻る指示を出す (川口)
12時20分	おわりの会 (ルーム A に集合) 講評 (武部、日戸)	

12時35分	次回連絡（日戸）次回までに「④夢・なりたい職業」をまとめる。 活動終了
12時45分	ふり返り①（日戸・川口・武部・メンター）
13時05分	ふり返り②（日戸・川口・武部）

参加メンバーの感想

●私のトリセツ発表会では、職場で質問があるときに上司に話しかけて良いタイミングが分からない事などについて発表しました。他の方の共感やアドバイスも聞いて、まずは上司が席にいるときは、今話しかけて良いか確認してどんどん質問していけば良いんだなと思いました。

●3回目のゼミはわたしのトリセツ相談会でしたが、自分の悩みを伝えて改善策を教えてくれたり、他の人の悩みを聞いて自分の体験や思ったことを伝えたりして、自分をさらけ出した感じもありとても参考になり楽しかったです。

●私のトリセツ発表ではいろいろなアドバイスをいただけてとても参考になりました。これからの社会人生活で活かしていきたいと思いました。私の夢、なりたい職業もこれからゆっくり考えてみようと思います。

●今日のインクルシブゼミとても良かったです。自分が不安になる話を皆さんにしたところ、たくさんアドバイスを頂きました。自分の事を話す事が出来て気分がスッキリした感じになりました。後輩の今藤君からの有給を取って気持ちを切り替えるというアドバイスが心に残りました。自分は真面目なので、何か用事がないと有給を取る事が無いのですが、たまにはそういう事も大切だなと思いました。

●今日、初めて進行をしてみて率直に難しいなと思いました。先程の振り返りでも話したように自分の悩みを話すことは抵抗感があるのかなと考え、進行役も緊張していたら周りも意見が言いづらいのではないかと思います。穏やかな雰囲気作りができるように今回意識して頑張りました。自分の中で、時間配分を忘れてたため小井土さんの相談時間が少なかったのが反省部分です。また、Bチームとの雰囲気が違かったと聞いて気になりました。自分の中では、穏やかな雰囲気を目指していたのですがワイワイと話せるようにしたかった部分もあって自分はその様な感じに出来なかったなと感じてしまいました。他にも、意見を下さった時にその対応の仕方が難しくどう返せば良いのか迷ってしまいました。全員に意見がまわるように意識したので、これは練習あるのみだなと思います。

●今回のインクルーシブゼミでは自分のトリセツを発表して、進行してくれた北島さんはもちろん清野さんや小野さん今藤さんの皆さんとても話しやすい雰囲気やアドバイスなどをくれて自分では思いつかなかった解決方法などを沢山知ることが出来てとても楽しかったです！少人数ということもありますが、自分からもコメントしやすい環境や面白い話、とても安心して話せる皆さんなのでもっとお話聞いていたいなと思いました。社会人の方ならではのアドバイスや好きなドラマや映画を見ると言ったプライベートを充実させるのは今からでも出来そうなので実践してみたいです。今回は完璧な司会を北島さんがしてくれたので、私も自分らしく頑張りたいと思います。

す。残りのインクルーシブゼミ回数は少ないですが、終わるのが寂しいと思えるくらい楽しめている自分があるのでこのまま楽しみたいです。

●今回は進行役といういつもと違う立場でゼミに参加しましたが、過度に緊張せず私自身が楽しんで進行する事が出来ました。他のメンバーの方がどのように感じていたのかだけ気になります。出来れば他の方の感想も少し知りたいなと思います。(楽しかった、やうるさかったなどの簡単なもの)今までは話を聞くだけだったので個人個人に対してしっかりと意識を向けることが出来ました。今回は別の役割があった為そこがおざなりになっていたと思います。他の方の悩み事に対して私が色々意見を言いがちだったのですが、司会ではなく「進行」ならではだと前向きに捉えています。次回のトリセツ相談会は小井土さんのサポートに回れたらと思います。小井土さんと今藤さんのペアだと落ち着いた感じの相談会になるのかな?となんとなく考えています。また、生方さんにはとても助けられました。各個人にアドバイスをして下さい、かとうがわさんやながやまさんが発言しやすい環境を作って頂きました。最初はサクラが必要なのではないかと考えていたのが恥ずかしいです。生方さんがいなかったら進行が難しかったと言える位に助けて頂きました。是非感謝を伝えたいのですが生方さんの連絡先を知らず、大変申し訳ないのですが、日戸先生から「山根が感謝していた」とお伝え出来ませんか?何卒宜しくお願い致します。

●今回の自分のトリセツでは、みんなに自分の苦手なことを発表すると言うのはとても緊張しましたが、みんなが共感してくれたことがとても嬉しかったです。自分だけではなく、みんなが同じことを思って、苦手としているということに安心しました。また、私が苦手とする文章を考えることについてみんなから、深く考えすぎず、もっと自分か思ったことを言ってい。最終的には伝わっていればいいんじゃないかととってもらえて、解決したと同時に、文章を考えることを難しく考えなくていいんだ、もっと気楽に伝えればいいんだと、気持ちが楽になりました。また、社会人の方から直接仕事について困っていることのお話を聞けるというのはとても貴重でした。就活では、就活用に用意されたお話になってしまうので、そうでは無い、現場の直接の声を聞くことが出来てとても良かったです。今後就職した際にも役立てられそうだと思います。

◎指導者ふり返り (川口)

北島さん山根さんの進行すばらしかった。お二人の個性がよく出ていて最高でした。板書係の方もお疲れさまでした。的確にスピーディに書かれておられてただ尊敬です。サガジョ生の参加の様子も「支援者」的に一歩高いところからではなく、勤労青年と同じ目線で共感し、納得している様子にも感動しました。サガジョ生のピュアで柔らかい感性いいですね。

第4回 :活動概要と参加メンバーの感想（インクルーシブ・ゼミ）

活動概要

実施日 11/6 活動場所：各自宅

- 本時のねらい：1 自分の夢やなりたい職業を開示する
2 多様な夢や生き方があることを実感する

欠席 山根（体調不良）

時 間	活 動
9時00分	打ち合わせ①（川口・日戸）
9時30分	共有： 打ち合わせ②（メンターも参加）
9月55分	設定確認
10時00分	全体活動 前回ふり返り（日戸）
10時10分	「夢・なりたい職業」発表会(川口) 順番にポートフォリオを見せながらプレゼンする。(1人3分以内) プレゼン時は「スピーカービュー&ミュート」、質疑応答時は「ギャラリービュー」。12人×5分=60分（質疑応答も含む）
11時10分	休憩(5分)
11時15分	自分のポートフォリオを紹介する。「スピーカービュー&ミュート」 12人×3分=36分
11時55分	おわりの会 講評（日戸、川口） 次回連絡（日戸） 「午後のセミナーの案内」
12時10分	活動終了
12時20分	ふり返り①（日戸・川口・メンター）
12時40分	ふり返り②（日戸・川口）

参加メンバーの感想

●今日はありがとうございました。夢、なりたい職業発表ではみんなの行きたい場所や、取得したい資格などの話が聞けて楽しかったです！自分のポートフォリオももっと増やして次回持って行きたいと思います。次回の対面でのインクルーシブ・ゼミもよろしくお願いします。

●今回も色々なお話を聞かせていただきありがとうございました。今回のゼミで皆さんの夢ややりたいことを聞いて、私と同じで旅したい人が多いんだなと思いました。また、和柄や着物が好きという共通点がある人がいて話を聞いて私のやってみたくらいことが一つ増えたと思いました。ポートフォリオを作り続けて見返すと自分の歴史がわかることなどを聞いて、これからも新しく何かあったことを入れていきたいと思いました。次回は対面で行うということで楽しみにしています。

●インクルーシブ・ゼミお疲れ様でした。今日のパーソナルポートフォリオの発表では、自分の趣味で将来的乗りたい鉄道について発表しました。みんなの発表を聞いて、今後は仕事で頑張りたい事や資格についてもパーソナルポートフォリオに記録していけたら良いなと思いました。

●今回のインクルーシブ・ゼミでは、夢や職業などについてを発表して楽しさも伝わり聞いていて私もワクワク出来た4回目でした。発表を通して、駅伝と一緒にする仲間や旅行と一緒にしてくれる友達がいたりという繋がりが出来てとても面白かったです。一緒になにかをする仲間が見つかったのも今回のように声に出し自分の気持ちを話したからだと思うので、恥ずかしがらず自分の気持ちを人に伝えるということが色々な形でなにかに繋がるなと感じました。最後、自分のパーソナルポートフォリオをパラパラ見返すと初めて作った時に比べて分厚くなっていたので、これからも好きな物はもちろん資格や今考えている事や将来の夢など、どんどんファイリングして見返した時に自分の力になるパーソナルポートフォリオを作っていきたいと思いました。

●みんなのやりたいことや夢を聞いていて、私も新たにやってみようと思うことが増えました！特に、資格に関してみんないろいろな資格を取ろうとしていたり、取っている人が多く、私もやらないといけないなという気持ちになり、一度やろうとして諦めていた資格をもう一度頑張ろうと思いました。また、海外に行きたいという夢は持っている人が多く、北島さんに「私もニュージーランドに行きたいと思っているので一緒に行きましょう！」って言って貰えたのがすごく嬉しかったです！いつか一緒に行けたらいいなと思います。

●なりたい職業、夢を発表して自分と同じ夢を持ってる方がいて共感することが沢山ありました。振り返ってみて、意外と自分は夢が沢山あるんだなといざ紙に書いてみて気付くことが出来ました。考えているうちに、楽しかった記憶があります。また、他の方の話も聞いてとても面白いなと思ったりこの様な夢を持ってる方もいるのだと意外な一面も見れたなと感じました。

◎指導者ふり返り（川口）

勤労青年は自分の仕事に充実感を感じている様子が伺えました。さらに「〇〇な作業がしたい」など具体的実際の夢も語ってくれました。また一人暮らしを考えている人も複数いました。大学生は全体的に「人を支えたい、感謝されたい」など抽象的な表現が多かったように思いました。3年生なのでこれから現実的な進路を考えるきっかけになったのではないのでしょうか。国内や海外旅行、バイク、自動車、音楽、スポーツなどの夢では共感場面が多く、盛り上がりました。

第 5 回 :活動概要と参加メンバーの感想 (インクルーシブ・ゼミ)

活動概要

実施日 11/27 実施場所：相模女子大学 (833・834 教室)

本時のねらい：1 自分の悩みを相談する経験をする

2 自分の強みを活かした対策や周囲への支援について考える

欠席 1名 (資格試験のため)

時 間	活 動	
9 時 15 分	相模大野駅中央改札口に勤労青年とサガジョメンターが集合 ※校門で、入構手続き (名簿に○をつける)	
9 時 30 分～	833 : 打ち合わせ (勤労青年メンター・サガジョ生・日戸・武部)	
9 時 55 分	834 : 全員集合	
10 時 00 分	到着後、研究同意書の説明を受けて署名 (武部)	
10 時 10 分	834 : 本時の流れ・ゲストや見学者の紹介 (日戸)	
10 時 10 分	A グループ : 834 教室 生方 (進行)、山根、小野、清野、 今藤、館下 (アドバイザー) 武部 (記録) ※ホワイトボード	B グループ : 833 教室 小井土 (進行)、北島、加登川、長山、 岩本、下村 (アドバイザー)、小林 (記 録) ※小林が都合がつかなければ日戸
10 時 20 分～	「11 月にあった楽しい出来事」 について順番に話す	左に同じ
11 時 20 分ころ ※3 人終了後、トイ レ休憩 (5 分間)	「わたしのトリセツ」相談会 (1 人 20 分) 社会に出た時に、 ①どんな場面でどんなことに困 るか ②自分にできる対策 ③周囲にお願いしたいこと ◎進行役の生方、小井土は最後 に相談する。 ※青 : アドバイス、赤 : 本人の 相談後の感想 ※ホワイトボードの「相談記録」 は写真にとって後日本人に送 付。各自印刷しポートフォリオ に入れる。	
12 時 05 分	時間があれば、雑談タイム	834 教室に戻る指示 (川口)
12 時 10 分～	おわりの会 (ルーム A に集合) 講評 (武部、日戸) 連絡「午後のセミナーと 12/4 の案内」(日戸)	

12時25分	活動終了
12時35分～55分	ふり返り（川口・日戸・武部・勤労青年メンター・サガジョ生） ※12/4の特別授業後の交流会の打ち合わせも簡単に行う



参加メンバーの感想

●今日はありがとうございました！初めて対面でみなさんにお会い出来てとても楽しかったし、嬉しかったです！私のトリセツ相談会では、色々なアドバイスもいただけてとても参考になりました。次回のゴリさんの特別授業も楽しみにしています。

●昨日のトリセツ相談会では、相談内容は前回と同じでしたが、小井土さん・北島さんと今回初めての相談会でした。前回と同じ内容の相談でも人によって様々な意見を聞く事が出来ました。みんなが相談している時も自分の意見を言う事が出来たので良かったです。昼休みに少し、大学の中の散策もして普段講義で使っている部屋の中に入ったり、外から食堂やcaféを見たりして楽しめました

●昨日は初めてゼミの皆さんとお会いする事が出来てとても良かったです。自分の悩みなどを皆さんにお話ししてアドバイスをもらって勇気が出ました。自分の事を知る事はとても大事な事だと思いました。伊東先生の話がとても良かったです。ズームで質問をしていた遠藤さんが紹介したカワセミの絵本の発表がとても印象的でした。僕も読んでみたいと思いました。次回も楽しみにしています。どうぞ宜しくお願い致します。

●今日初めて対面で皆さんと会う事が出来てほんとに良かったです。zoomでは知ることが出来なかった皆さんの雰囲気や、日常的な会話もすることができ、さらに仲良くなることが出来た気がします。活動では、グループみんなの助けがあって、なんとか進行をすることが出来、進行を進める中で発見するものもありました。また、山根さんにはとても感謝してます。2人で司会

をしたと言っても過言では無いくらい、私の足りない部分を補っていただき、グループの雰囲気
を明るくしてくれました。トリセツをした際に、私が話しかけるのが苦手と話したこともあって
なのか、お昼休憩の後に今藤さんが話しかけに来てくれたことがとても嬉しかったです。帰り
には長山さん、加登川さん、清野さん、舘下さんともイチョウ並木で写真を撮ったりしてお話する
ことができ、zoom では出来なかったことなので、とても良かったです。インクルーシブ・ゼ
ミに参加することで、改めて自分を見つめ直すことができました。自分のトリセツについて話し
合いましたが、障害のあるなしに関係なく、まず、自分の苦手なことの対策を考えていること、
そして、その考えた対策を行動しようという気持ちが大切なのではないかと思いました。このイ
ンクルーシブ・ゼミに参加して、多様性という言葉をもっと知ることが出来ました。今回で
インクルーシブ・ゼミ自体は最後でしたが、また皆さんとお話することができる機会があれば参
加したいです。

●最後のインクルーシブ活動を通して、とても深く考えさせられました。今まで大学で受けた授
業の中で支援＝ヨコの関係が大切だと知識では知っていましたが、いざその立場になるとヨコっ
て「なんなんだ」と疑問に思うことがあって活動の中で自分は出来ているのかなと思っていま
した。ですが、最後ゴリさんに「さがじょ生は、ヨコの関係が出来ている」と言ってくださって嬉
しかったです。振り返ってみると、第一回目や二回目など緊張していてその様に考えていたこと
があったなと思い後半のほうにつれてあまり考えず活動に参加していたなと思いました。なので、
ヨコ関係を意識しようと思えば思うほど自分を出せず楽しめなかったと感じたので良い意味で
あまり意識をせずに自分も楽しむことでヨコ関係が出来ていたのかなと思いました。ゴリさん
が振り返りでお話していた「ナチュラルサポート」を今後出来ていけたら良いなと考えました。
障害だから支援するのではなく、お互いが苦手なことをフォローして、得意なことを出せるよう
な環境、つまり雰囲気を大切にしたいなと思います。この活動を通して、私はとても楽しかった
です。今日、見学できていました上溝中学校のサポートルームの先生とお話をする機会があり、
私も以前にサポートルームに通っていた時期がありお世話になった先生が今、上溝中学校のサポ
ートルームにいるよと聞いて嬉しかったです。この活動以外にも自分が中学時代にお世話になっ
た先生と繋がりがあったことに関して縁を感じました。この活動を通して気付けたため先生方に感
謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。今日で最後と聞いて正直、寂しい気持ち
がありますがみんなと交流ができて楽しかったのとこの縁を大切にまた頑張りたいと思いました。

●今回は対面で授業をする事が出来てとても嬉しかったです。初めて、しっかり進行をしてみ
て、途中まで自分の中ではもっとしっかり進めなければいけないと思って焦っていた気持ちがあ
ったのですが、皆さんのアドバイスの中に「完璧な人はいないし、出来ないところはサポートして
くれる人がいる」や「少しくらい適当にやっても大丈夫」というアドバイスがあって今の私にはピ
ッタリすぎる考え方だなと思いました。私が、グダグダになってしまっても他の5人が助けて
くれて本当に助かりました。片付けをしている時も、岩本さんが「進行お疲れ様です。と
ても話しやすかったです。」とわざわざ言うてくださって、完璧を求めすぎなくても大丈夫だし、
もし他の人が同じように困っていたら自分もしてもらったようにそっとサポートにまわ
れる人になろうと思いました。zoom でやるよりも隙間時間にコミュニケーションが取
れたり出来たので、更に濃い時間が過ごせてとても成長出来た一日でした。4日の
ゴリさんの授業で、また皆さんに会えるのが楽しみです。

●前回とは違うメンバーのトリセツ相談会であり自分自身も進行ではなく違う立場での参加でした。サポートに回る事がとても難しかったのですが、進行の時間に気を取られる事が無かったので前回より多く発言が出来ました。初めての対面でしたが、Zoomの時より細かい表情の変化を見る事が出来て楽しかったです。しかし、座る位置によっては顔が見えない人がいたり、マスクで表情が分かりづらかったりしており、Zoomと対面のどちらの強みも知る事が出来ました。清野さんの本当に嬉しそうな笑顔がとても印象に残っています。何を話せば清野さんが笑ってくださるのかと頑張っただけながら話していました。私は、ながやまさんの事を背が高いと勝手に想像していたのですが、実際に会ってみると背が小さくてとても驚きました。実際に会って見ないと分からない事は沢山あるのだと思いました。来週も皆さんと会う機会がありますが、インクルーシブ・ゼミは今回で終了であり、とても寂しいです。貴重な体験をすることが出来ました。是非、来年もメンターとして参加させてください。

◎指導者ふり返り（川口）

今年度の相模女子大学インクルーシブ・ゼミも無事に終了できました。関係者の皆様のご協力に心から感謝します。インクルーシブ・ゼミの一番の特徴は知的障害や発達障害のある青年と一般の大学生が同じゼミ生という同じ立場で学ぶ、ヨコの関係性にあります。障害があるから支援するという考え方ではなく、障害の有無にかかわらずお互いが苦手なことを分かち合い、得意なことを素直に表現できる場を創ろうと考えてきましたが、今年も豊かな実りのあるプログラムになったと思います。最終回がライブできて本当に良かった。対面で行うと自然に雑談ができます。これが実にいい。参加者からは最終回を惜しむ声が続出しました。青年はキャンパスライフを満喫することができ、サガジョ生の障害観は大きく変わったと思います。彼女らはきっと社会の中で自然にサポートができる人になると信じます。



特別授業編

実施日：2021年12月4日（土）10時40分より

場所：711 教室

子ども教育学科の授業で日戸が担当している「知的障害児の心理」の外部講師を川口氏に依頼しており、「知的障害・発達障害の人たちへの青年期の心理社会的支援（キーワード：ライフスキル・自己理解・相談力・インクルーシブ）」というテーマで40名の学生に授業（補講）を行ってもらった。その授業に、インクルーシブ・ゼミのメンバーに聴講を呼びかけ、全員が希望して参加した。

また、授業終了後は教室にてメンバーが残って学生同士が主体的にパーソナルポートフォリオを見せ合う交流を行った。

終了後は、サガジョ生が構内を案内しながら、一緒に帰り、大学正門で記念写真を撮影していた。

（小井土は、資格試験受験のため後半は不参加）。

参加メンバーの感想


●ゴリさん、昨日はお疲れ様でした。講義で、長く働くためには就職するために必要な技術だけではなく、休日の楽しみ方や過去を振り返った後前を向くことも大切な事などについて学ぶ事が出来ました。ゼミではオンラインと対面での活動でしたが、対面の時はオンラインと違い大学内の散策や帰り道にみんなと話しながら帰る事も出来て楽しい活動にする事が出来て良かったです。

●昨日はありがとうございました。川口先生の授業を久しぶりに聞けてとても懐かしかったです。改めて折れない心が大切だと思いました。わかば学園の紹介もしていただきとても嬉しかったです！最初はインクルーシブ・ゼミの活動に、ついていけるか不安でしたが、みなさんが優しく接して下さったので安心して活動出来ました。パーソナルポートフォリオを作る作業では、自分の好きなものを集めたり、困りごとを相談できたりして良かったです。


インクルーシブ・ゼミを通して、相模女子大の方とも仲良くなれたり、大学の中も見ることが出来てとても良かったです。同じ趣味を持った方とも出会えてお喋り出来たのも嬉しかったです

●昨日はお疲れ様でした。昨日はジプタの作文を紹介して頂き嬉しかったです。僕もジプタの作文は今でも気に入ってます。ゴリさんのお話はとても良かったです。元気が出ました。ありがとうございました。パーソナルポートフォリオの話をしてとても良かったです。2月のインクルーシブ・ゼミも楽しみにしています。どうぞよろしくお願い致します。

<メンバーに事前に配布したお知らせ>

ゴリさんの授業 を見学しよう！ 

俺が主役だぜ！



ゴリさんがサガジョの授業にゲスト出演します。
大学の授業ってどんな感じ？
みんなでのぞいてみましょう。
吉本さんと今藤さんも出演するそうですよ。

日時：12月4日（土）10時30分集合
集合場所：相模女子大学7号館1階 711 教室
※ 勤労青年は、11月27日と同じように正門で受付をすること（名前に○）
※ 心配な人は10時25分に大学正門で待ち合わせして一緒に行きましょう。

持ち物：パーソナルポートフォリオ、筆記用具

困ったときは、090-1766-8974（日戸）に電話してください。

授業が終わった後にすること

- ① パーソナルポートフォリオを見せ合います
- ② 相模女子大学の構内を案内します（雨天中止）

※解散は13時30分すぎになります。昼食の時間はありませんので、朝食をしっかり食べてきてください。

●ゴリさん、昨日はお疲れ様でした。

インクルーシブ・ゼミの感想です。今年初めて参加させていただきましたが、ポートフォリオの発表やトリセツ相談会を通してサガジョ生・勤労青年関係なく共通の趣味や悩みなどがあって、見た目ではこう思っていないと思っていたのが、内面を知れて意外だなと思いました。昨日初めてゼミのみなさんと対面でお話しましたが、とても楽しく会話ができ、少しでも仲良くできて良かったです。またインクルーシブ・ゼミに参加できる機会があればぜひ参加したいと思います。本当にありがとうございました。

●今日は前回よりももっとパーソナルポートフォリオについてなど個人的に気になっていたお話をしたりすることができて、やはり対面で会えるっていいなと改めて感じました。また、帰りには、みんな写真撮って、いい思い出をつくることができたなと思います。

私は、自分から話すことが苦手なのですが、帰り道も皆さん優しく話しかけてくださる方が多く、とても楽しかったです。また、来年も参加できたらしたいと思っています。その時は、よろしくお願いします。

●私は、インクルーシブゼミに参加していますが皆さんとお話できて楽しかったです。活動では zoom でポートフォリオを紹介していたので今日は対面で直接見れたので zoom とはまた違った形のポートフォリオだったなと思いました。

帰りに話しながら帰った時に、「対面の方がやっぱいいよね」と言っていて私も最後に対面で出来たことが嬉しかったのともっと交流したかったなと思う気持ちがありました。

この活動で自分が悩んでいたことを相談した時に色々とアドバイスを貰えて、勉強になりました。それは、皆さんが否定せずに最後まで親身に聞いてくださったことで相談しやすくそう思えたのだと感じます。ありがとうございました。

●いつものメンバーでしたが、最後となる交流はとても楽しかったです。

改めて目の前でポートフォリオを紹介してもらいましたが、対面も相まって最初の紹介の時より賑やかに進めることが出来たと感じています。

帰宅時途中まで小野さん、加登川さん、清野さんと一緒だったのですが、電車から降りる際に小野さんとはぐれてしまった事がありました。その時に清野さんが真っ先に連絡をとってくださりました。小野さんに対して「大丈夫、そういうこともあるよ」と励ましていた所を見て、清野さんの優しい面を見ることが出来たと思いました。

* 青年さん達へ

勤労青年の皆さんと関わった事は私の人生の中でとても大きなターニングポイントになったと考えています。私達とのゼミ活動が皆さんに何か影響を与えられていたならば嬉しいです。数ヶ月間ありがとうございました!"

特別授業を聴講していた他の学生からの感想

特別授業（補講）には、インクルーシブ・ゼミのメンターかつインクルーシブ・リサーチのメンバーである岩本さんと今藤さんがゲスト出演し、トークやギター演奏を披露してくれた。以下に聴講していた他の学生からの感想の一部を紹介する。これを読むと、回を重ねた交流はもちろん、たった1回の授業であっても、知的障害の人たちの交流は学生の心に大きな影響を及ぼす可能性が考えられる。

<学生たちから寄せられた感想>

●今日は土曜日なのに来ていただいて、ありがとうございます！ 私は、みなさんが川口さんのような人に出会えていることがとても羨ましかったです。私は今回この講義を聞いているなかで、自分も苦手なことばかりで、でもやらなきゃいけないと思っていました。それがストレスでも誰に相談していいかわからず、やっと大学で話せる人を見つけれて、そういう風に悩んでいる人が私だけじゃないことに気がつけました。だから、早いうちに川口さんと出会えていたことが羨ましいなあと思いました。インクルーシブ・ゼミや講演会、視察などアクティブに活動していて、素晴らしいと思いました！

●お忙しい中、お時間をいただきありがとうございました。私もギターを弾くのですが、歌いながらだとリズムがぐちゃぐちゃになってしまいなかなか上手にできません。なので、今日とても楽しそうに歌っているのをみて、とてもすごいと思いました。私にとっては初めての交流だったので、とてもいい機会になりました。ありがとうございました。

●率直に楽器を弾きながら歌を歌うという行動が出来ることに凄いと感じた。(私はギターを授業でやって挫折した身なので...)話し方もずっとハキハキ堂々としていて、聞き取りやすかった。出来ないことが他の人より多いかもしれないけど、その分彼らにしか出来ないことも多いのだろうと考える。講師の方の話を真剣に聞いている姿が印象的だった。

●ハキハキと自己紹介もできていて、質問にも正確に答えられていたところが、すごく自信に満ち溢れているように感じました。私はなかなか障害を抱えている人と関わることがなかったので、このような場を借りて、障害を抱えていながらも頑張っている姿を見て感動しました。歌を歌ってくれた青年の方もとても良い歌声であり、ギターを使いながらの弾き歌いは大変だと思うが、できていて素晴らしいと思いました。そして、2人の青年の仲の良さもとても良好なのではないかと感じました。仲間の存在はとても素晴らしいと思いました。

●岩本さんと近藤さん本日はお話を聞かせていただきありがとうございました。お仕事のほかにインクルーシブゼミも活動されていて、とても素晴らしいと思いました。ギターと歌も上手で、素晴らしかったです。嘉門達夫さんの歌はとても面白くて好きです。これからも頑張ってください。

●障害があっても対等に接してくれて嬉しいというお話を聞いて、障害を持っていても対等に接することが大切なんだと感じました。そして、歌を披露していただきとても感動しました。とても良かったです。ありがとうございました。

●楽器演奏ありがとうございました!私は高校の授業で少しだけギターを演奏したことがあり、とても難しく断念したので、あそこまで滑らかに歌いながら演奏していたのを聴いて感動しました!!!!またセミナーに参加した感想を直に聞くことができ、とても参考になりました!今回はお忙しい中、講義を行なってください、ありがとうございました!

●おふたりとも話すことがまとまっていてすごく話の内容も聞きやすく、また歌もギターも上手でした。土曜日に学校まで来てよかったなと思いました。おふたりともお疲れ様でした。本日はありがとうございました。

●言葉遣いが上手で、礼儀も正しくて、歌も上手で、自分よりとても大人だと思いました。自分は大学行ってるからすごいとか、高卒だからだめとか全然ないなと感じました。お話を振られたときにしっかり答えられる姿がとてもかっこよかったです。ありがとうございました。

●楽天に就職されている方は健常者と変わらないくらいの話し方や接し方をされていて、本当に努力されたんだなと感じました。また、歌を披露された方は本当に胸を打たれました。本当に感動して、お二人がどれだけの試練を乗り越えて生きているのかとても強く思いました。本当にありがとうございました!!!

●発表や歌、ありがとうございました。歌は、忙しくて辛かった私に笑顔を与えてくれました。それが、本日講師の方が話していた「全ての人には役割がある。」ということなのだと感じさせて頂きました。発表している内容もとても分かりやすく、色々と学ばして頂きました。

●今日の講義でお話やギターを弾いてくださり、本当にありがとうございました。当事者の皆様だからこそのお言葉、すごく参考になりました。私の兄も発達障害をもっているのです、皆さんのお話を聴いて今後兄とどのように一緒に過ごしていくか考えていこうと思いました。本当にありがとうございました。

●私は人前で話すのがあまり得意ではないので、私達の前で堂々と演奏をしてくれたり話をしてくれたのが、本当にすごいと思いました。また、常にたくさんのことを学んで自分を成長させようとしている姿がかっこよく、印象的だったので、私も見習いたいと思いました!今日は、ありがとうございました!

●本日は、お忙しい中ありがとうございました。お二人のお話や素敵なお歌にとっても元気と勇気をいただきました。「支援する」ということなら囚われがちですが、「共に生きる」ということを念頭に知識を深かめていきたいと思えます。

●歌にとっても感動しました。私も周りの人と自分を気にしすぎしてしまうところがあるので、自分自身を見つめ直し、今の自分に自信を持とうと思いました。堂々と人前で歌うことが苦手なので、すごい特技だなとも思いました!素敵な歌を聞いて本当に良かったです!ありがとうございました!

●お話してくださっている姿がとてもキラキラしていて、学ぶ事への喜びが伝わって来ました。歌からもパワーを貰い、私ももっと頑張ろうと思いました。共に大学生活楽しみましょう!ありがとうございました。

2021年度の総括と今後の課題（インクルーシブ・ゼミ）

株式会社 はまりハ 川口 信雄

インクルーシブ・ゼミ最大の特徴は障害のある青年と一般の大学生が「同じゼミ生」という立場で学ぶ、「ヨコの関係性」にある。障害があるから支援するという「タテ」の考え方ではなく、障害の有無にかかわらず、得意なことを素直に表現し、お互いに苦手なことを分かち合い、相談し合える場を創ろうと考えた。テーマは「自己理解」である。

初回は2019年度に相模女子大学キャンパスで、ゆたかカレッジ（福祉型カレッジ）の発達障害や知的障害のある青年と大学生とで始まった。本来は対面実施が大前提のプログラムであるが、2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大によりオンライン実施となった。初めてのオンライン実施は手探りの中、無事終了することができた。なお、この時のゼミ参加者は前年度のインクルーシブ・セミナーの参加者から募った。

2020年度はその肝心のインクルーシブ・セミナーが中止となってしまったため、2021年度のゼミ参加者募集は違う方法を考える必要に迫られた。結果的に筆者がかつて勤務した特別支援学校の教え子たちに声をかけ、男女各2名の青年が参加してくれることとなった。彼らは高等部卒業後に企業就労している青年たち（以降、勤労青年）ではあるが、高等部卒業後3年もの月日が経過しており、相模女子大学でのキャンパスライフには期待と共に不安も感じていた。そこで、メールやSNS、電話などで丁寧に連絡を取り合い準備を重ねていった。ところが、初回を翌月に控えた8月2日、神奈川県に3回目の緊急事態宣言が発出されたため、2021年度もオンラインでの開催となった。

結果的にみれば、オンラインは悪いことばかりではなく、オンラインだからこそその利点もあった。例えば、常にマスクなしの表情が見られる、思ったより意見が言いやすい、画像やプレゼンは共有機能を使うと鮮明に見える、録画機能がある等である。

そうは言っても対面開催には敵わない。対面は相槌などがわかりやすいので共感を得やすいし、ポートフォリオを手にとってぱらぱらと俯瞰することができる。休憩時間などのちょっとした時間に生まれる自然な雑談も効果絶大で、ゼミ生間の距離が一気に縮まる。所謂ヒドゥン・カリキュラム（潜在的教育効果）である。秋以降は感染状況が落ち着き、11月末の最終回は対面で行うことができた。当日はゼミ終了後もキャンパスを一緒に散策するなど、日が暮れるまで名残を惜しんでいた。ある勤労青年は「昨日は初めてゼミの皆さんとお会いする事が出来てとても良かったです。自分の悩みなどを皆さんにお話ししてアドバイスをもらって勇気が出ました。自分の事を知る事はとても大事な事だと思いました」と述べている。一方、大学生の「障害のあるなしに関係なく、まず、自分の苦手なことの対策を考えること、そして、その考えた対策を行動しようという気持ちが大切なのではないかと思いました。このインクルーシブ・ゼミに参加して、多様性という言葉をもっと知ることが出来ました」という声からは障害観の変化も伺える。このように今年度のゼミも多くの学びをもたらしてくれたが、所期の目的は果たして達成されたのかについて振り返ってみよう。

まず、勤労青年の「同世代とのコミュニケーションスキルの向上」については、土曜日に大学生と一緒にゼミで学ぶという経験は新鮮な刺激に満ちており、コミュニケーションスキルの向上に止まらず、生活上のマンネリ感の解消や余暇の充実にも貢献した。また、大学生の実社会へ出る不安に向き合うことを通して、社会人としての誇りも実感できたようである。

次に大学生の「社会の中で自然にサポートできる力の養成」については、葛藤場面も含めて体験的に「障害」を知る機会になった。また、今回から昨年度のゼミに参加した大学生と勤労青年が2名ずつメンターとして参加した。それも指導者や支援者としてではなく、ゼミ生と同じ目線で活動してくれたのが良かった。

最後に、双方にとっては対話の中で「自己理解」が深まり、そのツールであるパーソナルポートフォリオは、今もそれぞれの職場や大学で継続・進化中である。

さらに「おまけ」もあった。それは「楽しさ」である。大学生の「障害だから支援するのではなく、お互いが苦手なことをフォローして、得意なことを出せるような環境、つまり雰囲気大切にしたいなと思います。この活動を通して、私はとても楽しかったです」という声がそれを物語っている。勤労青年からは「大学生・勤労青年関係なく共通の趣味や悩みなどがあって、見た目ではこう思っていないと思っていたのが、内面を知れて意外だなと思いました。昨日初めてゼミのみなさんと対面でお話しましたが、とても楽しく会話ができて少しでも仲良くできて良かったです」という意見と共に、来期のゼミ参加への熱望が表明された。インクルーシブ・ゼミを通して、勤労青年はキャンパスライフを味わうことができ、大学生の障害観も大きく変わった。彼女らは社会の中で自然にサポートができる人になると信じる。また、当初は全7回で始めたプログラムも全5回シリーズに落ち着いてきた。「自己理解」というテーマについては一つの完成形に近いと考えている。

課題の一つとして挙げられるのが参加者の募集方法である。本ゼミは発達障害系の方が多く参加していることもあり、もっと幅広い障害者が参加すべきという議論もあるだろう。その中で私たちが「企業就労している青年」に焦点を当てた理由は、「働いている青年への支援が足りない」と考えるからだ。彼らの中には、進路の選択肢が少ない中で18歳で社会に出たということに負い目にも似た感情を持つ人もいる。一方、「社会人」としての経験知では大学生にとって「あこがれ」の存在ともなりうる。ここに「ヨコ」の関係づくりの仕掛けがある。インクルーシブだからといって、闇雲に一緒の場に入れるのでは不十分で、障害者も大学生もお互いに学び合えるためにはこのような仕掛けが必要ではないだろうか。私たちの実践は決して万能なプログラムではない。対象をどこに置くかでプログラムの中身は変わってくる。インクルーシブプログラムには多様な可能性がある。全国各地の大学を舞台にそれぞれの特徴を活かした実践が行われていくことを期待する。

今年度のインクルーシブ・ゼミを終えるにあたり、まずは休日に勇気をもって参加してくれた勤労青年と大学生に感謝したい。また、板書係やオンラインの技術面の助言やフォローなどいろいろな形で支えてくれた関係者の皆様のご尽力にも心から感謝する。

